



ひろしま国際建築祭 2025  
Hiroshima Architecture  
Exhibition 2025

ひろしま国際建築祭 2025  
開催報告書

### 目次

P.3	<b>I. 開催概要</b>	P.61	<b>VI. 運営</b>
P.4	事業推進	P.62	会場運営
P.5	概要	P.63	ボランティアスタッフ
P.6	開催趣旨		
P.7	総合テーマ	P.65	<b>VII. 広報・コミュニケーション</b>
P.7	出展建築家・作家	P.66	媒体露出
P.8	出展建築家・作家プロフィール	P.66	新聞・雑誌等の主な報道記事
P.12	公式デザイン	P.68	テレビ・ラジオ出演
		P.69	プレスリリース
P.13	<b>II. 展示</b>	P.69	記者発表会
P.14	展示会場	P.70	メディアツアー
P.20	展示内容	P.71	広報用制作物
P.30	移動型キオスクー小さな建築プロジェクト	P.72	連携活動（行政）
		P.73	連携活動（民間）
P.33	<b>III. オープンングレセプション・イベント・ワークショップ</b>	P.74	他の芸術祭との連携
P.34	オープニングレセプション	P.74	公式ウェブサイト
P.34	トークイベント	P.74	公式 SNS
P.37	ワークショップ		
P.40	特別応援プログラム	P.75	<b>VIII. 来場者の状況</b>
P.43	連携イベント	P.76	来場者数
		P.77	来場者アンケート
P.49	<b>IV. 鑑賞パスポート・チケット</b>		
P.50	券種・料金	P.83	<b>IX. 経済波及効果</b>
P.51	販売期間	P.84	推計結果
P.51	販売箇所		
P.53	ハンドアウト	P.85	<b>X. 後援・助成・協賛等の支援</b>
		P.86	後援
P.55	<b>V. 公式グッズ・クラウドファンディング・ふるさと納税・スポンサー協賛</b>	P.86	助成
P.56	公式グッズ	P.87	協賛
P.57	オフィシャルブック	P.88	後援・助成団体名、協賛企業名の掲出
P.58	クラウドファンディング	P.94	特別協賛・特別協力・協力
P.58	ふるさと納税	P.94	謝辞
P.59	スポンサー協賛	P.95	<b>XI. 主催団体</b>
		P.96	概要
		P.96	役員

## I. 開催概要

2025年10月4日(土)から11月30日(日)までの58日間、  
広島県福山市・尾道市の7会場を中心に、  
「つなぐ——「建築」で感じる私たちの“新しい未来”」  
(英語名: Architecture: A New Stance for Tomorrow)を  
総合テーマに掲げた、建築文化を発信する建築祭を開催し、  
期間中、延べ約21万4千人が来場した。

## ひろしま国際建築祭 2025

### Hiroshima Architecture Exhibition 2025

## 事業推進

- 一般財団法人神原・ツネイシ文化財団（広島県福山市）が主催となり、文化庁（国）、広島県・福山市・尾道市（自治体）、一般社団法人せとうち観光推進機構・一般社団法人広島県観光連盟（観光関連団体）、広島商工会議所・福山商工会議所・尾道商工会議所（経済団体）、一般社団法人日本建築学会・一般社団法人日本建築協会・公益社団法人日本建築家協会・公益社団法人日本建築士会連合会・一般社団法人日本建築士事務所協会連合会・一般社団法人日本建築設計学会（建築関連団体）、中国新聞社（報道）の後援により、事業を推進した。
- 出展建築家・作家の選定は総合テーマを鑑み、総合ディレクター白井良邦とチーフキュレーター前田尚武を中心に行った。日本が国別で見ると、建築界のノーベル賞と言われる「プリツカー建築賞」受賞者がアメリカと並び世界最多受賞国であることから、日本人建築家を中心とした選定となった。
- 展示会場やイベント会場は街の中に分散させ、来場者・参加者が展示だけではなく街歩き自体も展示の一部として楽しめるように工夫した。いくつかの展示会場に関しては、建築祭が無ければ普段足を運ばないような場所に設定し、来場者・参加者が福山・尾道の魅力ある風景・食・街並みなどに、建築祭が開催されたことで出会うという「体験」ができるよう計画した。
- 建築祭期間中には展示に加え、トークイベントが開催され、若手建築家からプリツカー建築賞受賞の巨匠まで多くの建築家が福山・尾道を訪れ講演等を行った。福山市内は広島県立歴史博物館講堂、ふくやま美術館ホール、iti SETOUCHI コワーキングスペース、神勝寺 禅と庭のミュージアムなど、尾道市内は松翠園大広間、ONOMICHI U2、LLOVE HOUSE ONOMICHIなどを会場に実施した。
- 建築祭期間中には展示だけではなく、参加型のイベント「ワークショップ」を多数行った。特に力を入れたのは子ども向け、または親子で参加できるワークショップで、参加費は無料とし、鉋掛けやのこぎりで木を切るなどの大工体験や、寺の境内を歩き回り植物や落ち葉を集めるなど、身体を動かしながら行うイベントを重視し企画した。地域への理解や建築文化の浸透など、小学生を中心とした子どもたちとその親世代に向けてのアプローチを積極的に行い、感性を育む取り組みを実施した。

## 概要

名 称：	ひろしま国際建築祭 2025
会 期：	2025年10月4日（土）～11月30日（日）[58日間]
総合テーマ：	つなぐ——「建築」で感じる、私たちの“新しい未来” Architecture: A New Stance for Tomorrow
展 示 会 場：	福山市内 / 神勝寺 禅と庭のミュージアム、ふくやま美術館 ギャラリー、JR 福山駅南口（移動型キオスクー小さな建築プロジェクト） 尾道市内 / 尾道市立美術館、まちなか文化交流館「Bank」、LLOVE HOUSE ONOMICHI、ONOMICHI U2、LOG、ONOMICHI U2 前オリープ広場（移動型キオスクー小さな建築プロジェクト）
出展建築家・作家：	23 組
主 催：	一般財団法人神原・ツネイシ文化財団 総合ディレクター： 白井良邦 チーフキュレーター：前田尚武
後 援：	文化庁 広島県 福山市 尾道市 一般社団法人せとうち観光推進機構 一般社団法人広島県観光連盟（HIT） 広島商工会議所 福山商工会議所 尾道商工会議所 一般社団法人日本建築学会 一般社団法人日本建築協会 公益社団法人日本建築家協会 公益社団法人日本建築士会連合会 一般社団法人日本建築士事務所協会連合会 一般社団法人日本建築設計学会 中国新聞社
助 成：	公益財団法人 大林財団
メディアパートナー：	designboom Dezeen

## 開催趣旨

〈ひろしま国際建築祭〉は、「建築」で未来の街をつくり、子どもの感性を磨き、地域を活性化させ、地域の“名建築”を未来に残すことをミッションとして掲げ、3年に一度開催する建築文化を発信する祭典です。

世界を舞台に活躍する巨匠から未来を担う若手建築家まで。彼らのドローイングや模型、動画の展示や特別なインスタレーションを通じ、建築文化を切り口に、私たちの未来社会と一緒に考えてみたいと思います。トークショーや文化財指定の古建築・通常非公開の建築物などのオープンアーキテクチャー、地元の子どもたちを招いての建築鑑賞やワークショップなど、多様なプログラムを計画しています。

巨大な内海に面した瀬戸内地域では古来、風土や景観、伝統に呼応した名建築の数々が生まれてきました。その背景には、日本が国家として形づくられた遣隋使・遣唐使の時代から近世の朝鮮通信使・北前船にいたるまで、広島県の位置する瀬戸内海が“文化・物流の大動脈”だったことが理由としてあります。日本はこの瀬戸内海を通じ、海外から人や文化を招き入れ、あるいは発信し、この海を通じ文化交流を行ってきました。古建築はもとより、自然と文化が築いてきた瀬戸内地域特有の磁力に吸い寄せられるように丹下健三、槇文彦、安藤忠雄、伊東豊雄、SANAA、坂 茂といった現代の建築家たちも挑戦的で実験的な名作を次々と生み出しています。それゆえに瀬戸内地域は古建築から現代建築まで「建築文化の集積地」として貴重な建築の宝庫となっています。

“文化・物流の大動脈”であった瀬戸内海の周辺地域は“つなぐ”ことを鍵にその礎を築いてきたといえます。『ひろしま国際建築祭 2025』は、「つなぐ——「建築」で感じる、私たちの“新しい未来” / Architecture: A New Stance for Tomorrow」をテーマに、歴史、風土、景観、技術、思想などさまざまな視点から「建築」に触れ、考え、交わる機会をつくり、ここ瀬戸内で建築文化を感じることから、みなさんと“新しい未来”像を考えるきっかけになればと願っています。

## 総合テーマ

つなぐ——「建築」で感じる、私たちの“新しい未来”

Architecture: A New Stance for Tomorrow

『ひろしま国際建築祭 2025』は、「つなぐ——「建築」で感じる、私たちの“新しい未来” Architecture: A New Stance for Tomorrow」をテーマに、歴史、風土、景観、技術、思想などさまざまな視点から「建築」に触れ、考え、交わる機会をつくります。

地球規模で発生する自然災害や、戦争とそれに伴う難民問題、そして環境破壊——。21世紀に入って四半世紀経った今も、私たちは様々な問題に直面し、不安を感じながら日常生活を送っています。またここ日本では少子化・高齢化が進み、経済の停滞や無秩序な開発で街の風景が変わり、活気が失われつつあります。私たちはそのような状況のなかで、問題にどう向き合い、課題を解決していくべきでしょうか？

「建築」は単に建物や街づくりを指すものではありません。それは文化を生み・育み、私たちの生活をより豊かにしながら未来をつくっていくための「知恵」のひとつです。

建築祭を通じ、ここ瀬戸内で建築文化を感じることから、みなさんと“新しい未来”像を探りたいと考えています。

## 出展建築家・作家

安藤忠雄

石上純也

磯崎新\*

伊東豊雄

川島範久

高野ユリカ

妹島和世 (SANAA)

丹下健三\*

長坂常

中山英之

西沢立衛 (SANAA)

坂 茂

藤井厚二\*

藤本壮介

堀部安嗣

前田圭介

槇文彦\*

山本理顕

VUILD / 秋吉浩気

Clouds Architecture Office

けんちくセンター CoAK

スタジオ・ムンバイ / ビジョイ・ジェイン

UMA / design farm

(以上、五十音順・\*故人)

## 出展建築家・作家プロフィール

### 安藤忠雄 TADAO ANDO 建築家



撮影： 岡野欣次

1941年、大阪生まれ。安藤忠雄の大きな功績のひとつは、「コンクリート」という世界中どこでも手に入る汎用性の高い建築土木用資材を用い、大理石のように美しい素材として広く世間に広めたことだろう。彼はコンクリートを用いて生み出した空間に、巧みに自然光を取り入れ、住宅であっても、そこが神殿のような崇高な建築に昇華させている。また彼の人柄と作品に心底惚れる施主も多く、安藤と何年にも渡り、プロジェクトを伴奏していくクライアントが多いのも特徴だ。例えば、瀬戸内海に浮かぶアートの聖地として知られる「直島」でのベネッセの福武聡一郎との関係。1992年完成の〈ベネッセハウスミュージアム〉から始まり、2025年開館の〈直島新美術館〉まで、30年以上に渡り共にプロジェクトを進めてきた。海外ではケリング・グループのフランソワ・ピノーとのタッグが知られる。未完に終わったバリ・スガン島の美術館計画（2001年）から、イタリア・ヴェニスでの〈パラッツォ・グラッシ〉（2006年開館）や〈プンタ・デラ・ドガーナ〉（2009年開館）、そしてバリの〈ブルス・デ・コムルス〉（2021年完成）まで、共に美術館をつくり続けてきた。

### 石上純也 JUNYA ISHIGAMI 建築家



© CHIKASHI SUZUKI

1974年生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修士課程修了後、妹島和世建築設計事務所を経て、2004年石上純也建築設計事務所を設立。主な作品に、神奈川工科大学 KAIT 工房・KAIT 広場、Park Groot Vijversburg ビジターセンター、水庭、2019年サーペンタインパヴィリオン、House & Restaurant、水の美術館など。2009年日本建築学会賞（作品）、2010年第12回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞、毎日デザイン賞、2019年芸術選奨文部科学大臣新人賞（美術部門）、OBEL AWARD、2024年フレデリック・キースラー建築芸術賞、2024年日本建築学会賞（作品）など受賞多数。https://jnyi.jp/

### 磯崎新 ARATA ISOZAKI 建築家



写真提供：

Arata Isozaki &amp; Associates

1931年、大分市生まれ。1954年東京大学工学部建築学科卒業。1963年磯崎新アトリエを設立。以後、国際的な建築家として、群馬県立近代美術館、ロサンゼルス現代美術館、パルセロナオリンピック競技場などを設計。近年では、カタール国立コンベンションセンター、ミラノアリアンツタワー、上海シンフォニーホール、湖南省博物館、中央アジア大学、中国河南省鄭州市の都市計画などを手がけた。世界各地の建築展、美術展のキュレーションや、コンペティションの審査委員、シンポジウムの議長を務めた。代表的な企画・キュレーションに「間－日本の時空間」展（1978-81）、ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館コミッション（第6回～8回）、同展日本館展示「亀裂」で金獅子賞受賞（1996）、建築思想の国際会議「ANY会議」を10年に渡り企画（1991-2000）。著書に『建築における「日本的なもの」』（新潮社、MIT Press）、過去50年間に渡り書いてきた文章を編集した『磯崎新建築論集』（全8巻、岩波書店）など多数。建築のみならず、思想、美術、デザイン、文化論、批評など多岐にわたる領域で活躍。2019年「プリツカー賞」受賞。2022年没。　https://isozaki.co.jp/

### 伊東豊雄 TOYO ITO 建築家



撮影： 藤塚光政

1941年生まれ。65年東京大学工学部建築学科卒業。主な作品に「せんだいメディアテーク」、「多摩美術大学図書館（八王子キャンパス）」、「みんなの森 ぎふメディアコスモス」、「台中国家歌劇院」（台湾）など。近作に「水戸市民会館」、「茨木市文化・子育て複合施設 おにクル」「EXPOホール2025」などがある。現在、「国家児童未来館」（台湾）などが進行中。日本建築学会賞（作品賞、大賞）、ヴェネチア・ビエンナーレ金獅子賞、王立英国建築家協会（RIBA）ロイヤルゴールドメダル、高松宮殿下記念世界文化賞、プリツカー建築賞、UIAゴールドメダルなど受賞。2011年に私塾「伊東建築塾」を設立。これからのまちや建築を考える場として様々な活動を行っている。また、自身のミュージアムが建つ愛媛県今治市大三島においては、塾生有志や地域の人々とともに継続的なまちづくりの活動に取り組んでいる。　http://www.toyo-ito.co.jp/

### 川島範久 NORIHISA KAWASHIMA 建築家



1982年、神奈川県生まれ。2005年東京大学工学部建築学科卒業。2007年東京大学大学院修士課程修了。2007～2014年日建設計。2012年UCパークレー客員研究員。2014～2020年東京工業大学助教。2016年東京大学大学院博士課程修了、博士（工学）取得。2017年川島範久建築設計事務所設立。現在、明治大学准教授、川島範久建築設計事務所代表。「自然とつながる建築」をめざして、デザインの実践と研究に取り組んでいる。2014年「NBF大崎ビル(旧ソニーシティ大崎)」にて日本建築学会賞（作品）、2024年「GOOD CYCLE BUILDING 001」にて日本建築学会作品選奨を受賞。主著に『環境シミュレーション建築デザイン実践ガイドブック 自然とつながる建築をめざして』（彰国社、2022年）。　http://norihisakawashima.jp/

### 高野ユリカ YURIKA KONO 写真家



1987年、新潟県生まれ。土地や歴史、建築や空間、個人の物語のリサーチから着想し、大文字の歴史:history: his-storyに回答する her-story や、歴史に残ってこなかった無名の人々への想像をテーマに作品を制作している。主な個展に「REGARDING THE ECHO OF OTHERS」（横浜市民ギャラリー、2023）、「秋の日記」（日比谷図書文化館特別展示室、2024）など。　https://www.yurikakono.com/

### 妹島和世 KAZUYO SEJIMA 建築家



©SANAA

1956年生まれ。1981年日本女子大学大学院修了。1987年妹島和世建築設計事務所設立。1995年西沢立衛とSANAA設立。現在、ミラノ工科大学教授、日本女子大学客員教授、大阪芸術大学客員教授、横浜国立大学名誉教授、東京都庭園美術館長。主な妹島和世建築設計事務所の作品に再春館製菓所女子寮、梅林の家、犬島「家プロジェクト」、すみだ北斎美術館、日本女子大学目白キャンパスがある。SANAA/2004年ヴェネチアビエンナーレ国際建築展 金獅子賞、2010年プリツカー賞、2022年高松宮殿下記念世界文化賞建築部門など数多くの賞を受賞。主な作品に、金沢21世紀美術館、ニューミュージアム（アメリカ）、Rolex ラーニングセンター（スイス）、ルーヴル・ランス（フランス）、グレイス・ファームズ（アメリカ）、荘銀タクト鶴岡、日立市新庁舎、ポッコロニ大学新キャンパス（イタリア）、ラ・サマリテヌ（フランス）、シドニー・モダン・プロジェクト（オーストラリア）など。http://www.sanaa.co.jp/

### 丹下健三 KENZO TANGE 建築家



撮影： 斎藤康一

1913年、大阪府生まれ。1938年、東京帝国大学工学部建築科を卒業、ル・コルビュジェの教え子である前川國男建築事務所に入る。1941年、東京大学大学院に入学、卒業後、1946年から1974年まで母校で教鞭をとり、「丹下研究室」を主宰。横文彦、磯崎新、黒川紀章、谷口吉生ら多くの優れた人材を育成するとともに、ミラノ工科大学、ハーバード大学、清華大学など世界各国で教育に携わる。初期の代表作である広島平和資料館、香川県庁舎、代々木国立屋内総合競技場は国の重要文化財に指定されている。その他、国内では東京カテドラル聖マリア大聖堂、東京都庁舎、フジテレビ本社ビルなど、また海外ではUOBプラザ（Singapore）、国家国王宮殿（Saudi Arabia）、グランテ克蘭（France）、ナイジェリア新都心計画（Nigeria）、アメリカ医師会本部ビル（USA）など、数多くの作品に携わる。プリツカー賞をはじめ、フランス建築アカデミー、イギリス王立建築家協会、アメリカ建築家協会の各ゴールドメダル、ブルー・ル・メリット勲章（西ドイツ）、文化勲章（日本）、レジオン・ドヌール勲章（フランス）を受賞し、アカデミーフランセーズ正会員（フランス）にも選出されている。2005年3月没。https://www.tangeweb.com/

### 長坂常 JO NAGASAKA 建築家



撮影： 藤塚光政

1971年生まれ。1998年東京藝術大学卒業後にスタジオを立ち上げ、現在は千駄ヶ谷にオフィスを構える。家具から建築、そして町づくりまでスケールも様々、そしてジャンルも幅広く、住宅からカフェ、ショップ、ホテル、銭湯などなどを手掛ける。どのサイズにおいても1／1を意識し、素材から探求し設計を行い、国内外で活動の場を広げる。日常にあるもの、既存の環境のなから新しい視点や価値観を見出し「引き算」「誤用」「知の更新」「見えない開発」「半建築」など独特な考え方を提示し、独自の建築家像を打ち立てる。代表作に Sayama Flat / 奥沢の家 / FLAT TABLE / ColoRing / LLOVE / Aesop / BLUE BOTTLE COFFEE / 桑原商店 / DESCENTE BLANC / HAY / 武蔵野美術大学 16 号館 / 黄金湯 / DOKUBO + EL AMIGO /D&DEPARTMENT JEJU など。https://schemata.jp/

### 中山英之 NAKAYAMA HIDEYUKI 建築家



©Takashi Kato

1972年、福岡県生まれ。1998年、東京藝術大学美術学部建築科卒業。2000年、東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修士課程修了。2000-2007年、伊東豊雄建築設計事務所勤務。2007年、中山英之建築設計事務所設立。2024年 - 東京藝術大学美術学部建築科教授。代表作に「石の島の石」「弦と弧」「mitosaya 薬草園蒸留所」などがあり、ブルワリー施設やレストラン、店舗、公共施設、オフィス、住宅など幅広い用途の設計を手掛けている。主な賞歴にSD Review 2004 鹿島賞、第17回環境・設備デザイン賞 優秀賞、グッドデザイン賞金賞がある。主な著書に『中山英之 | スケッチング』『中山英之 | 1/100000000』『建築のそれからにまつわる 5本の映画,and then: 5 films of 5 architectures』がある。http://www.hideyukinakayama.com

### 西沢立衛 RYUE NISHIZAWA 建築家



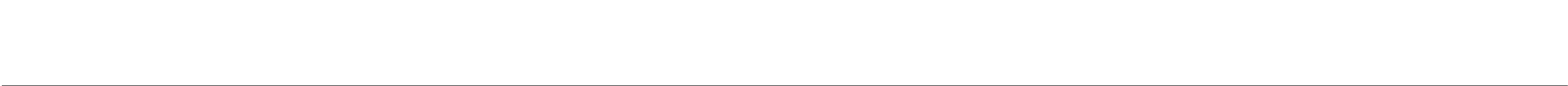
©SANAA

1966年生まれ。1990年横浜国立大学大学院修了。妹島和世建築設計事務所を経て1995年妹島和世とSANAA設立。1997年西沢立衛建築設計事務所設立。現在、横浜国立大学大学院Y-GSA教授。主な西沢立衛建築設計事務所の作品に森山邸、House A、十和田市現代美術館、豊島美術館、軽井沢千住博美術館がある。SANAA/2004年ヴェネチアビエンナーレ国際建築展 金獅子賞、2010年プリツカー賞、2022年高松宮殿下記念世界文化賞建築部門など数多くの賞を受賞。主な作品に、金沢21世紀美術館、ニューミュージアム（アメリカ）、Rolex ラーニングセンター（スイス）、ルーヴル・ランス（フランス）、グレイス・ファームズ（アメリカ）、荘銀タクト鶴岡、日立市新庁舎、ポッコロニ大学新キャンパス（イタリア）、ラ・サマリテヌ（フランス）、シドニー・モダン・プロジェクト（オーストラリア）など。http://www.sanaa.co.jp/

### 坂茂 SHIGERU BAN 建築家



1957年、東京都生まれ。クーパー・ユニオン建築学部（NY）で建築を学び、東京、パリ、ニューヨークに事務所を構える。紙管を使った建築や、木材を使った革新的な構造で知られている。代表作はポンピドゥー・センター・メス（2010年）、紙の大聖堂（2013年）、大分県立美術館（2014年）、ラ・セーン・ミュージカル（2017年）、静岡県富士山世界遺産センター（2017年）、SIMOSE（2023年）、豊田市博物館（2024年）。1995年にNGO「Voluntary Architects' Network（VAN）」を設立し、世界各地での災害支援に数多く貢献したことから、プリツカー建築賞（2014年）、マザー・テレサ社会正義賞（2017年）、アストゥリアス皇太子賞平和部門（2022年）、高松宮殿下記念世界文化賞 建築部門（2024）を受賞。現在、芝浦工業大学特別招聘教授。https://shigerubanarchitects.com/ja/



### 藤井厚二 KOJI FUJII 建築家



1888年生まれ。実家は現在の広島県福山市にあった十数代続く「くろがねや」と言われる商家で造酒屋、製塩業、金融業を営んでいた。藤井はその次男として生まれる。1913年、東京帝国大学工科大学建築学科卒業。同年、竹中工務店入社。朝日新聞大阪本社（1916年竣工）などの設計を担当する。1919年、竹中工務店退社。同年、アメリカ、イギリス、フランスなど私費で約10か月間の視察旅行に出かける。帰国後の1920年12月に京都帝国大学工学部講師に就任、京都市大崎町に住宅を完成させ移り住む。翌21年、同大学助教授、1926年に教授に就任。1928年、聴竹居竣工。1937年、直腸がんが発覚。1938年、逝去。享年49歳。

### 藤本壮介 SOU FUJIMOTO 建築家



撮影：David Vintner

1971年、北海道生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、2000年藤本社介建築設計事務所を設立。2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞（ラルブル・プラン）に続き、2015、2017、2018年にもヨーロッパ各国の国際設計競技にて最優秀賞を受賞。国内では、2025年日本国際博覧会の会場デザインプロデューサーに就任。2024年には「(仮称)国際センター駅北地区複合施設基本設計業務委託」の基本設計者に特定。主な作品に、ブダペストのHouse of Music (2021年)、マルホンまきあーとテラス 石巻市複合文化施設（2021年）、白井屋ホテル（2020年）、L'Arbre Blanc (2019年)、ロンドンのサーペンタイン・ギャラリー・パビリオン 2013 (2013年)、House NA (2011年)、武蔵野美術大学 美術館・図書館 (2010年)、House N (2008年) 等がある。https://www.sou-fujimoto.net/

### 堀部安嗣 YASUSHI HORIBE 建築家



©Tetsuya Ito

1967年、神奈川県横浜市生まれ。1990年、筑波大学芸術専門学群環境デザインコース卒業。1991-1994年、益子アトリエにて益子義弘に師事。1994年、堀部安嗣建築設計事務所を設立。2002年、第18回吉岡賞を《牛久のギャラリー》で受賞。2007-2024年、京都造形芸術大学（2020年4月より、京都芸術大学に校名変更）大学院教授。2016年、日本建築学会賞（作品）を《竹林寺納骨堂》で受賞。2020年 毎日デザイン賞を《立ち去りがたい建築》で受賞。2022年 - 放送大学教授。https://horibe-aa.jp

### 前田圭介 KEISUKE MAEDA 建築家



© 藤塚光政

1974年、広島県福山市生まれ。2003年UID設立。故郷「広島県福山市」を拠点に国内外でインターローカルな設計活動を行い、建築・庭・街といった内外の境界を一体的に捉えた空間を探索している。福山市内では『ホロコースト記念館』にてDedalo Minosse 2007 /2008 国際建築賞 Under40 グランプリ（イタリア）、こどもえんつくし乳児棟『Peanuts』にて2012年こども環境学会賞 デザイン賞、2013年日事連建築賞 国土交通大臣賞、『福山本通・船町商店街アーケード 改修プロジェクト - とおり町 Street garden-』にてグッドデザイン賞 2017 グッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）。『santo』にて2024年日本建築学会作品選奨を受賞。その他、第11回 ARCASIA 建築賞 ゴールドメダル (Asia)、第24回 JIA 新人賞、Design Vanguard 2014 選出（米国）、AR House 2016 Winner（英国）など受賞。https://maeda-inc.jp/

### 榎文彦 FUMIHIKO MAKI 建築家



撮影：Peter Hyatt

1928年、東京都生まれ。1952年に東京大学工学部建築学科を卒業し、アメリカのクランブルック美術学院及びハーバード大学大学院の修士課程を修了。その後、SOM、セルト・ジャクソン建築設計事務所、ワシントン大学のキャンパス・プランニング・オフィスに勤務した。ワシントン大学とハーバード大学で都市デザインの準教授も務め、1965年に帰国、株式会社榎総合計画事務所を設立。設計活動の傍ら東京大学教授を務め、1979年から1989年まで教壇に立った。国内外で数々の賞に輝くなど高い評価を得た。主な受賞は、イスラエルのウルフ基金賞（1988）、トーマス・ジェファーソン建築賞（1990）、国際建築家連合（UIA）ゴールドメダル（1993）ハーバード大学からプリンス・オブ・ウェールズ都市デザイン賞（1993）、アーノルド・プルンナー記念建築賞（1999）、高松宮殿下記念世界文化賞建築部門受賞（1999）、AIA アメリカ建築家協会ゴールドメダル（2011）。最も建築家にとって名誉あるプリツカー賞を1993年に受賞した。2024年に世界したが、世界中の建築界と建築論に影響を与え続けるレガシーを残した。https://www.maki-and-associates.co.jp/

### 山本理顕 RIKEN YAMAMOTO 建築家



©Tom Welsh for The Hyatt Foundation Pritzker Architecture Prize

1945年、北京生まれ。日本大学理工学部建築学科卒業、東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修了、東京大学生産技術研究所原広司研究室研究生。2007-2011年、横浜国立大学大学院教授、2018-2022年、名古屋造形大学学長、2022-2024年、東京藝術大学客員教授、2024年より神奈川大学客員教授、横浜国立大学名誉教授・名誉博士。主な作品にGAZEBO、埼玉県立大学、公立はこだて未来大学、横須賀美術館、The CIRCLE チューリッヒ国際空港、名古屋造形大学など。桃園、天津、北京、ソウルなどでも複合施設、公共建築、集合住宅などを手掛ける。主な著書に『新編 住居論』（平凡社）、『地域社会圏主義』（TWO VIRGINS）、『権力の空間 / 空間の権力』（講談社）、『都市美』（河出書房新社）、『山川さんの山川山荘』（TWO VIRGINS）、山本理顕 コミュニティーと建築』（平凡社）など。2001年「第57回日本芸術院賞」、2024年度プリツカー賞、文化庁長官表彰（国際芸術部門）受賞。https://www.riken-yamamoto.co.jp/

### スタジオ・ムンバイ / ビジョイ・ジェイン STUDIO MUMBAI / BIJOY JAIN 建築家



撮影：Tetsuya Ito

1965年、インドのムンバイ生まれ。ロサンゼルスとロンドンで実務経験後、1995年にインドに戻り、スタジオ・ムンバイを設立。現在、スイスのメンドリシオにある建築アカデミーで教鞭をとっている。また、イエール大学やデンマーク王立芸術建築アカデミーでも客員教授として教鞭をとっている。2015年、建築界への貢献が認められ、ベルギーのハッセルト大学から名誉博士号を授与された。2017年にはRIBA(王立英国建築家協会)からインターナショナル・フェローシップを授与された。2018年、インド国外初の建築プロジェクトとして尾道の多目的スペース「LOG」がオープン。スタジオ・ムンバイの作品は、アート、建築、マテリアルの境界を探索している。スタジオは学際的なグループとして運営され、反復的なプロセスから生み出される環境を共有している。ここでは、プロセスや時間を表現に不可欠な要素としてアイデアを探索し、水、空気、光は作品の合成におけるすべての物質性の基礎となっている。https://www.studiomumbai.com/

### Clouds Architecture Office 建築家



©GION

Clouds Architecture Office は建築設計・アート・リサーチ分野の幅広い知見を統合する創造性に焦点をあてた活動を目的として、曾野正之（1970年生まれ）とオスタッフ・ルダケヴィッチ（1973年生まれ）によりニューヨークで2010年設立。2015年曾野祐子参加。理念と実体験の交点を探る環境の知覚体験を根幹に置く設計手法により多様なプロジェクトを提案し、これまでに住宅・公共施設からパブリックアートや宇宙建築に至る幅広い設計に携わる。Clouds AO(クラウド・アオ)の設計過程における特徴は、必要なプログラムに対する徹底したリサーチ及び多面的なデザイン・スタディを通じ最良の解法を導くプロセス重視のアプローチにある。2015年、NASA 火星基地設計コンペ優勝、同コンセプトのNASA との共同設計を開始。2018年 ANA と JAXA による宇宙開発実証実験施設「AVATAR X LAB」を発表。2022年には福岡の複合施設「010 BUILDING」を手がけた。現在ウクライナでの3D プリントによる復興支援プロジェクトを Serendix、国連工業開発機関と共に進行中。 https://cloudsao.com/

### けんちくセンター CoAK Centre for Co-Architecture Kyoto 建築プラットフォーム



2023年、現代社会における多様化した建築文化をキュレーションするためのプラットフォーム「一般社団法人けんちくセンター CoAK（Centre for Co-Architecture Kyoto）」として川勝真一（1983年生まれ）が設立。2024年、京都市内に「けんちくセンター CoAK」をオープン。展覧会、ワークショップなどのイベントの開催のほか、建築案内やツアーコーディネート、地域コミュニティに向けた建築相談・技術サポートを実施。これらの取り組みを通じて、CoAK は建築分野における現代的な実践に対する一般の人々の理解を深め、対話を促進することを目指している。https://centrecoak.org

### UMA/design farm デザインスタジオ



2007年、原田祐馬により設立。大阪を拠点に文化や福祉、地域に関わるプロジェクトを中心に、グラフィック、空間、展覧会や企画開発などを通して、理念を可視化し、新しい体験をつくりだすことを目指している。「ともに考え、ともにつくる」を大切に、対話と実験を繰り返すサステナブルなデザインを実践。現在のメンバーは、原田祐馬、山副佳祐、西野亮介、津田祐果、平川かな江、高橋めぐみ、大隅葉月、白川温未の8人。受賞歴はグッドデザイン賞 2016・金賞、日本サインデザイン賞最優秀賞、日本タイポグラフィ年鑑ベストワーク、CS デザイン賞準グランプリなど。https://umamu.jp/

### VUILD/ 秋吉浩気 KOKI AKIYOSHI 建築家



1988年、大阪府生まれ。芝浦工業大学工学部建築学科卒業後、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科政策・メディア専攻 X-design 領域にてデジタルファブ리케이션を専攻。2017年に建築テック系スタートアップVUILDを創業し、「建築の民主化」を目指す。デジタルファブ리케이션やソーシャルデザインなど、モノからコトまで幅広いデザイン領域をカバーする。主な受賞歴に Under 35 Architects exhibition Gold Medal 賞 (2019)、グッドデザイン金賞 (2020)、Archi-Neering Design AWARD 最優秀賞 (2022,2024)、みんなの建築大賞大賞 (2024)。著書に『メタアーキテクトー次世代のための建築』（スベルプラーツ出版刊 2022年）、『建築家の解体』（VUILD BOOKS 刊 2022年）。https://vuild.co.jp/

## 公式デザイン

戦後 80 年という節目の年に行われる『ひろしま国際建築祭 2025』では、焼け野原から「建築」の力も借りて復興を遂げてきた日本の姿と、平和の象徴でもある建築家・丹下健三の「広島平和会館原爆記念陳列館（現・広島平和記念資料館本館）」の写真を基軸に、過去・現在・未来という 3 つの時間を建築で「つなぐ」構成になっている。

「過去」のイメージは写真家・石元泰博が撮影した「広島平和会館原爆記念陳列館」のモノクローム写真を用い、「現在」の姿は尾道のホテル LOG の写真を、「未来」のビジョンを表すヴィジュアルには 2015 年に NASA が主催した火星居住コンペ 1 等に輝いた NY 拠点の建築ファーム Clouds Architecture Office の CG を用い展開した。

シンボルマーク、ロゴタイプデザインは原研哉、メインヴィジュアルデザインは UMA / design farm が担当している。



シンボルマーク、ロゴタイプデザイン：原研哉



メインヴィジュアルデザイン：UMA/design farm

写真左 / Yasuhiro Ishimoto, Hiroshima Peace Center (Kenzo Tange), c.1954,

The Museum of Art, Kochi © Kochi Prefecture, Ishimoto Yasuhiro Photo Center

写真中央 / Studio Mumbai 「LOG」 © Ken'ichi Suzuki

写真右 / Clouds Architecture Office / Space Exploration Architecture 「Mars Ice House」 © Clouds Architecture Office / SEArch +

## II. 展示

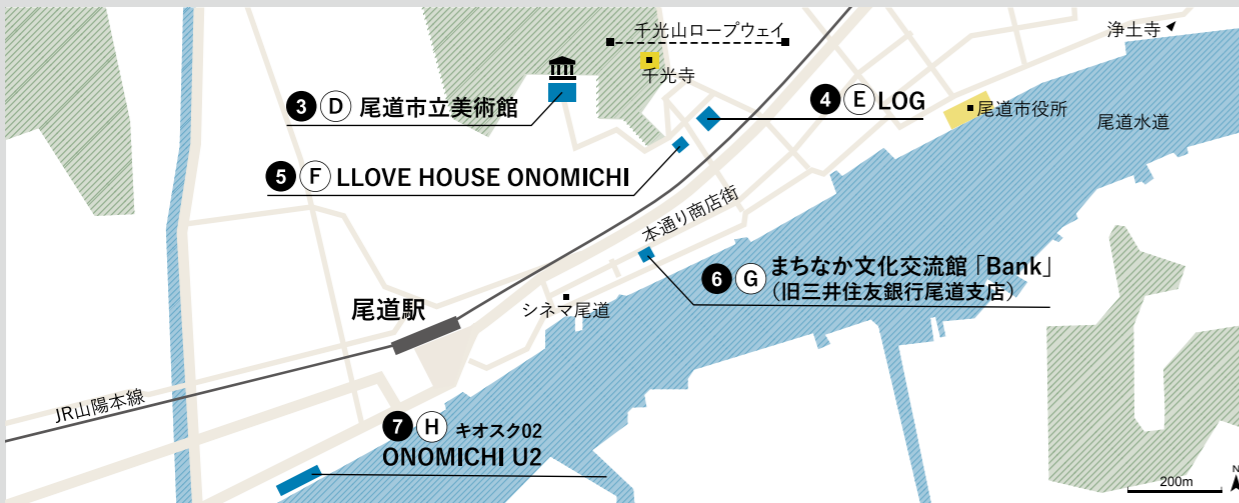
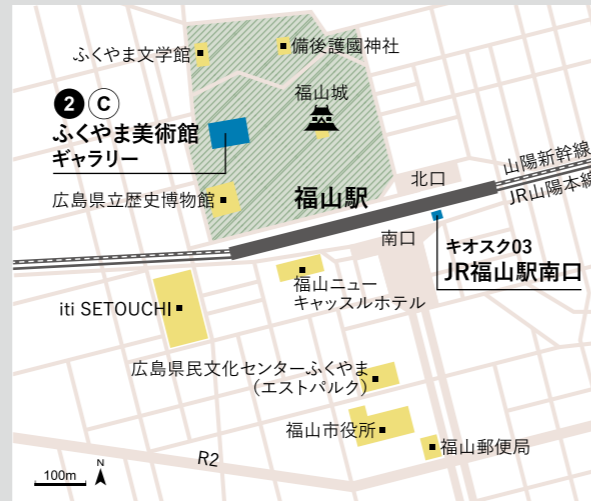
『ひろしま国際建築祭 2025』は、広島県福山市・尾道市を舞台に開催され、7つの会場で、8つの展示を行った。またその展示自体とは別に、「移動型キオスクー小さな建築プロジェクト」として、JR 福山駅南口、〈ONOMICHI U2〉前のオリーブ広場、〈神勝寺 禅と庭のミュージアム〉の枯山水庭園に、著名建築家の設計による合計3つの小さな建築をつくり、それぞれインフォメーションセンターやワークショップの展示拠点、飲み物を販売するスタンドとして展示・活用した。

## 展示会場

福山市内で2か所、尾道市内で5か所の合計7つの会場で展示を行った。この2市にまたがる複数会場を周遊するうえで拠点となるのがJR福山駅であることから、駅南口に建築家・石上純也氏設計のキオスクを設置し、そこをインフォメーションセンターとして情報発信や来訪者の交流を促した。

福山市の会場はJR福山駅から徒歩で気軽にアクセスできる福山城公園内の〈ふくやま美術館 ギャラリー〉と、車で約30分を要し公共交通機関ではアクセスが困難ではあるが、他の地域にはない特色・特別感のある〈神勝寺 禅と庭のミュージアム〉とした。

尾道市内の会場は〈尾道市立美術館〉を中心に、山側・商店街・海側を徒歩で周遊できるよう設定し、街を回遊し偶然の出会いや発見を促すとともに、旅情をそそることを意識して設定された。



### ① 神勝寺 禅と庭のミュージアム (福山市)

天心山神勝寺は、臨済宗建仁寺派の特例地寺院で、その敷地は7万坪にも及ぶ。そもそもは海難事故で亡くなった人びとの慰霊のため造船業を営む開基、神原秀夫によって1965年に創建された。建築祭の展示が行われる「無明院」は、境内奥の丘の上に位置する神勝寺の本堂で、前庭は作庭家・中根金作による「無明の庭」、「阿弥陀三尊の庭」、「羅漢の庭」と名付けられた広大な枯山水庭園となっている。また、白隠禅師の禅画・墨跡のコレクションを展示・公開する荘厳堂も併設されている。『ひろしま国際建築祭 2025』では、無明院のピロティ空間に用意された特設会場『NEXT ARCHITECTURE | 「建築」でつなぐ新しい未来』の展示を、茶室「明々軒」では、『神原・ツネイシ文化財団 建築文化再興プロジェクト「成城の家」の写し—丹下健三自邸の再現・予告展』の展示を行った。



#### 会場の特徴

赤松に囲まれた瀬戸内の自然の中に、本堂、国際禅道場、茶室などの歴史的建造物や現代建築が点在し、庭園を楽しみながら、座禅、写経のほか、墨跡、現代アートの鑑賞ができる。境内の入口となる総櫓造りの総門は、かつて京都の旧・賀陽宮邸（かやのみやてい）にあったものを1967年に開基が譲り受け当地に移築したもの。総門をくぐると、中根庭園研究所が手がけた池泉回遊式庭園の賞心庭を囲むように、浴室、含空院などが配置されている。なかでも特筆すべきは2つの現代建築で、寺務所である〈松堂〉（2014年完成）は建築家・建築史家として活躍する藤森照信氏の設計で、屋根の上には松の木が植えられている。また〈洗庭〉（2016年完成）は世界的に活躍する彫刻家・名和晃平氏とクリエイティブプラットフォーム〈SANDWICH〉の建築作品で、やわらかな曲線で構成される長さ約45mの舟をイメージしたスペースが、海原に見立てた錆石の庭の上に浮かぶように建っている。その内部空間は、アートと禅の世界が融合したインスタレーション空間になっている。

#### 会場概要

住所： 広島県福山市沼隈町大字上山南 91  
TEL： 084-988-1111  
展示時間： 9:00-16:00  
(寺院自体の最終受付は16:30まで。閉門は17:00)  
会期中は無休  
公式HP： <https://szmg.jp/>

※施設・展示の観覧には『ひろしま国際建築祭 2025』鑑賞パスポートが必要

### ② ふくやま美術館 ギャラリー (福山市)

JR福山駅のすぐ目の前に福山城の天守がそびえるが、それはかつての福山城の敷地だった土地に駅がつくられたからである。現在はその福山城天守を中心とした場所が福山城公園となり、その公園内にある福山市立の美術館が〈ふくやま美術館〉である。福山市は、市民の要望に応えるべく1974年から福山市美術館（仮称）の調査委員会を設置、約15年にわたり準備を重ね、1988年11月に、福山市市制施行70周年記念事業として、この美術館が開館した。



写真提供：ふくやま観光コンベンション協会

#### 会場の特徴

美術館は、佐藤総合計画の設計。オーディトリウム設計の第一人者として知られる建築家・佐藤武夫（1899-1972）の佐藤武夫設計事務所を源流とする組織設計事務所だ。低層2階建ての美術館ロビーには、大きな窓とソファが用意された空間が設けられ、美しい公園越しに福山城の天守を望むことができる。同じ敷地内に建つ〈広島県立歴史博物館（ふくやま草戸千軒ミュージアム）〉（1989年開館）も佐藤総合計画の設計である。

#### 会場概要

住所： 広島県福山市西町2丁目 4-3  
(福山城公園内)  
TEL： 084-932-2345  
展示時間： 9:30-17:00(入館は16:30まで)  
月曜休館  
(月曜が祭日の場合は火曜休館)  
公式HP： <https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-museum/>

※施設・展示の観覧には『ひろしま国際建築祭 2025』鑑賞パスポートが必要

### ③ 尾道市立美術館（尾道市）

尾道の丘の上、千光寺公園内にある建築家・安藤忠雄氏が改修・増築設計を手がけた美術館。この会場では建築界のノーベル賞と言われる「プリツカー建築賞」を受賞した日本人建築家の魅力を探る展示『ナイン・ヴィジョンズ | 日本から世界へ 跳躍する9人の建築家 Nine Visions: Japanese Architects from Japan to the World』が開催された。「プリツカー建築賞」受賞の日本人建築家は、今やアメリカと並び8組（9名）と世界一の数を誇るが、それはなぜなのか。日本の建築家が世界でどう評価され、どのようにして世界レベルに達したのか、その魅力と真相を探る展示となった。

#### 会場の特徴

設計：安藤忠雄 1980年開館（リニューアルオープン2003年）。尾道にある重要文化財「西郷寺本堂」を模した本瓦葺き寄棟屋根をもつ既存の美術館建物を、建築家・安藤忠雄氏が改修、さらに新館を増築して2003年にリニューアルした尾道市立の美術館。増築部分は庇（ひさし）をもったガラススクリーンの外壁の中に、ANDO建築の特徴である美しい打放しコンクリートでつくられた展示室が挿入される構成。これは安藤氏の代表作のひとつアメリカ・テキサス州にある〈フォートワース現代美術館〉（2002年開館）などでも試みられているもの。さらに増築部分と旧館、ガラススクリーンと展示室の隙間といった随所に「余白の空間」が与えられている。そこには坪庭のように緑が挿入され、来館者にとっての「隠れ家」のような場が用意されている。



#### 会場概要

住所： 広島県尾道市西土堂町17-19  
千光寺公園内  
TEL： 0848-23-2281  
展示時間：9:00-17:00  
（入館は16:30まで）  
月曜休館  
（月曜が祭日の場合は火曜休館）  
公式HP： <http://www.onomichi-museum.jp>

※施設・展示の観覧には  
『ひろしま国際建築祭2025』  
鑑賞パスポートが必要

### ④ ログ（尾道市）

尾道の千光寺山の中腹に位置するホテル〈LOG〉は1963年に建てられた鉄筋コンクリート造の集合住宅を改修し、2018年に開業した全6室のホテル。設計を手掛けたのはインドを拠点に活動する建築家ビジョイ・ジェイン氏が率いる〈スタジオ・ムンバイ〉で、『ひろしま国際建築祭2025』ではこの施設を舞台に、大阪のデザインスタジオ〈UMA / design farm〉が、ビジョイ氏の設計コンセプトやそれを具現化した尾道のスタッフの思いを聞き、その「カケラ」を拾い集めるという「建築との対話」を試みる体験型の展示が行われた。LOGの施設内にはカフェも併設されており、建築巡りの休憩スポットとして多くの人々が訪れた。

#### 会場の特徴

設計：スタジオ・ムンバイ 2018年開業。〈LOG〉はLantern Onomichi Gardenの頭文字から取られたネーミングで、1963年に建てられた集合住宅をホテル、カフェ、ギャラリーにリノベーションした施設。改修の設計を手掛けたのはインド・ムンバイを拠点に活動する建築家ビジョイ・ジェイン氏率いる〈スタジオ・ムンバイ〉。彼らが計画の拠り所としたのは、〈LOG〉のすぐ近くにある小説家・志賀直哉が『暗夜行路』を練った長屋（志賀直哉の旧居）と同じ高さに位置するこの地からの風景だった。志賀直哉が見たであろう尾道と、ビジョイ・ジェイン氏を惹き付けた小津安二郎監督の映画『東京物語』での尾道の風景の追体験をコンセプトとし、海側と山側の土地を繋ぐことに力が注がれた。1、2階は住戸の壁を取払い、海側、山側の庭をつなぐピロティ空間を創出。周囲にカフェやギャラリーを配置した。3階部分は6室の客室と宿泊者専用のライブラリーとなっている。縁側を持つ客室は、和紙職人ハタノワタル氏による、床までも和紙が貼られた内装で、繭をイメージしたやさしくつつまれるような空間となっている。



#### 会場概要

住所： 広島県尾道市東土堂町11-12  
TEL： 0848-24-6669  
展示時間：展示時間11:00-17:00  
無休  
公式HP： <https://l-og.jp/>

※「鑑賞パスポート」での見学は、1階及び2階のオープンエリア限定だが、特典として、宿泊者専用2階ギャラリーの公開（14:00-17:00）も行われた。  
※1階オープンスペースでは、鑑賞パスポートを購入せずに自由に観覧できる展示を実施した。 <https://l-og.jp/>

### ⑤ LLOVE HOUSE ONOMICHI（尾道市）

千光寺公園に上がる尾道の丘の中腹にあるホテル〈LOG〉の、階段を挟んでちょうど向かい側、かつて作家・志賀直哉が暮らした長屋に隣接して建つのが〈LLOVE HOUSE ONOMICHI〉だ。築110年の空き家に一目惚れした建築家・長坂常氏が自ら購入・リノベーションを行い、2022年に新たな文化交流拠点〈LLOVE HOUSE ONOMICHI〉として再生させた。普段はアーティストインレジデンスとして期間限定で公開され、不定期で国内外のクリエイターが建築やデザイン、アートに関する展示を行っている。

#### 会場の特徴

設計：長坂常 / スキーマ建築計画 2022年改修。交通の要衝として栄えた尾道で、かつて商人が接待のために山の手に建てた別荘「茶園」。そのひとつである築110年の日本家をリノベーションした施設。「尾道水道を一望できる開口部」「庭に大きく開く縁側」「座敷の付書院」などの魅力的な空間や細部はそのまま残り改修を行った。建築家の長坂常氏は、「展示にも使いやすいように、“建築家の気配”を極力出さずニュートラルな状態を保ちながら、傷んだ柱や壁、水まわり設備など、不具合のある部分や生活に不自由な部分に絞って修繕を施した」と語っている。尾道の風景とつながると同時に世界中のクリエイションともつながる場所となっている。



#### 会場概要

住所： 広島県尾道市東土堂町8-28  
TEL： なし  
展示時間：10/4（土）～10/13（月・祝）、  
11/22（土）～11/30（日）  
10:00-17:00（最終入場16:30）  
展示期間中は無休  
公式HP： <https://lovehouse.org/>

※施設・展示の観覧には  
『ひろしま国際建築祭2025』  
鑑賞パスポートが必要

### ⑥ まちなか文化交流館「Bank」（尾道市）

尾道の商店街（本通り商店街）の中心部に建つ文化施設。元は旧・三井住友銀行尾道支店だった建物を改修し、2023年5月にオープンした。市民の文化活動の発表の場として、また尾道を訪れる観光客に尾道の歴史や文化などの魅力を伝える場として活用されている。建物は尾道市の重要文化財に指定されている。

#### 会場の特徴

かねてから交通の要所として、また商都として栄えた尾道には明治時代になると住友銀行が設けられた。当時、住友家にとって尾道は、大阪市の住友本店と別子銅山（愛媛県新居浜市）との中継地点として重要な場所だったからだ。現在、〈まちなか文化交流館「Bank」〉となっている建物は、尾道では二代目の住友銀行の建物で1938年（昭和13年）に建てられた。設計は日建設計（住友系）の源流である長谷部竹腰建築事務所によるもの。ちなみに初代の尾道支店もこの建物から歩いて行ける場所（尾道市久保1-10-3）に現存する。こちらは1904年（明治37年）の完成で、住友本店臨時建築部の技師長だった野口孫市の設計によるものだ。

#### 会場概要

住所： 広島県尾道市土堂1-8-3  
TEL： TEL：0848-38-1911  
（まちなか文化交流館「Bank」）  
0848-20-7514  
（尾道市企画財政部文化振興課）  
展示時間：10月4日（土）～11月3日（月・祝）  
10:00-18:00  
水曜休館  
公式HP： <https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/7/62836.html>

※展示の観覧には  
『ひろしま国際建築祭2025』  
鑑賞パスポートが必要

オノミチ・ユーツー

## ⑦ ONOMICHI U2 (尾道市)

1943年(昭和18年)に建てられた海運倉庫を、ホテル、レストラン、ベーカリー、カフェなどが入る複合施設に改修したのが〈ONOMICHI U2〉。U2というネーミングはこの倉庫の正式名称〈県営上屋2号倉庫〉の上屋の頭文字Uと2号倉庫の数字から付けられたもの。かつては人通りが少なかったJR尾道駅西側にある港湾地域が、この複合施設ができたことで人の流れが変わり、エリアが活性化された。この会場では、若手建築家が自ら制作した雑誌やヴィジュアル「ZINE」(Magazineのzineから取られた自主制作本)の展示・販売が行われた。

## 会場の特徴

設計：谷尻誠 + 吉田愛 / サポーズデザインオフィス 2014年開業。太平洋戦争中の1943年(昭和18年)に建てられた海運倉庫を、広島・東京を拠点に活動する広島出身の建築家、谷尻誠氏と吉田愛氏がリノベーションした施設。歴史的建造物ゆえに躯体には手を加えず、また将来的には現状復帰の可能性もあるという条件の中で、彼らが提案したのが「建築内建築」というコンセプトだった。解体が容易な軽量鉄骨を用いて尾道の街並のような「小さなスケールの連続と路地」をつくり、そこに様々な機能を持つスペースを配して利用者同士はもちろんのこと、尾道に住む人たちの出会いや関わりを促すよう設計されている。使用されている素材は「素朴さの中の洗練」というテーマに基づき、尾道の古い街から引用した木、石、モルタル、造船の街でもある尾道に因んだ鉄。照明などの細部やファブリックまでも地元で因んだものを用い、「瀬戸内」を体験できる空間を目指しデザインされている。



## 会場概要

住所： 広島県尾道市西御所町5-11  
 TEL： 0848-21-0550 (HOTEL CYCLE)  
 展示時間：10:00-17:00  
 無休  
 公式HP：<https://onomichi-u2.com/>

※この展示は「鑑賞パスポート」  
 購入なしで観覧できる  
 無料プログラム



## 展示内容

展示は『ひろしま国際建築祭 2025』の総合テーマである「つなぐ——「建築」で感じる、私たちの“新しい未来”  
Architecture: A New Stance for Tomorrow」を踏まえて企画・計画され、福山市・尾道市の会場を合わせ、8つの展示が行われた。

### ① NEXT ARCHITECTURE | 「建築」でつなぐ新しい未来

『ひろしま国際建築祭 2025』のテーマ「つなぐ——「建築」で感じる、私たちの“新しい未来”」に呼応し、未来を担う5組の建築家がそれぞれの視点から新たなヴィジョンを提示する試み。現代の建築家たちは、建築を近代が求めた人工的な装置としてではなく、地球と響き合う有機的な存在として捉え直している。この展示では、「海」「風景」「自然」「宇宙」「市民」の5つの視点から構想された5つの提案を行い、環境と社会の新たな結びつきを探り、建築がいかにして私たちの未来を形づくるかを問いかけた。

#### 〈企画概要〉

展示期間：2025年10月5日（日）～2025年11月30日（日）

会場：神勝寺 禅と庭のミュージアム（無明院下・特設会場）

主催：神原・ツネイシ文化財団

出展建築家：藤本壮介、石上純也、川島範久、Clouds Architecture Office、VUILD/ 秋吉浩気

協賛：浅沼組、ひろぎんホールディングス、ちゅうぎんフィナンシャルグループ、三井住友銀行

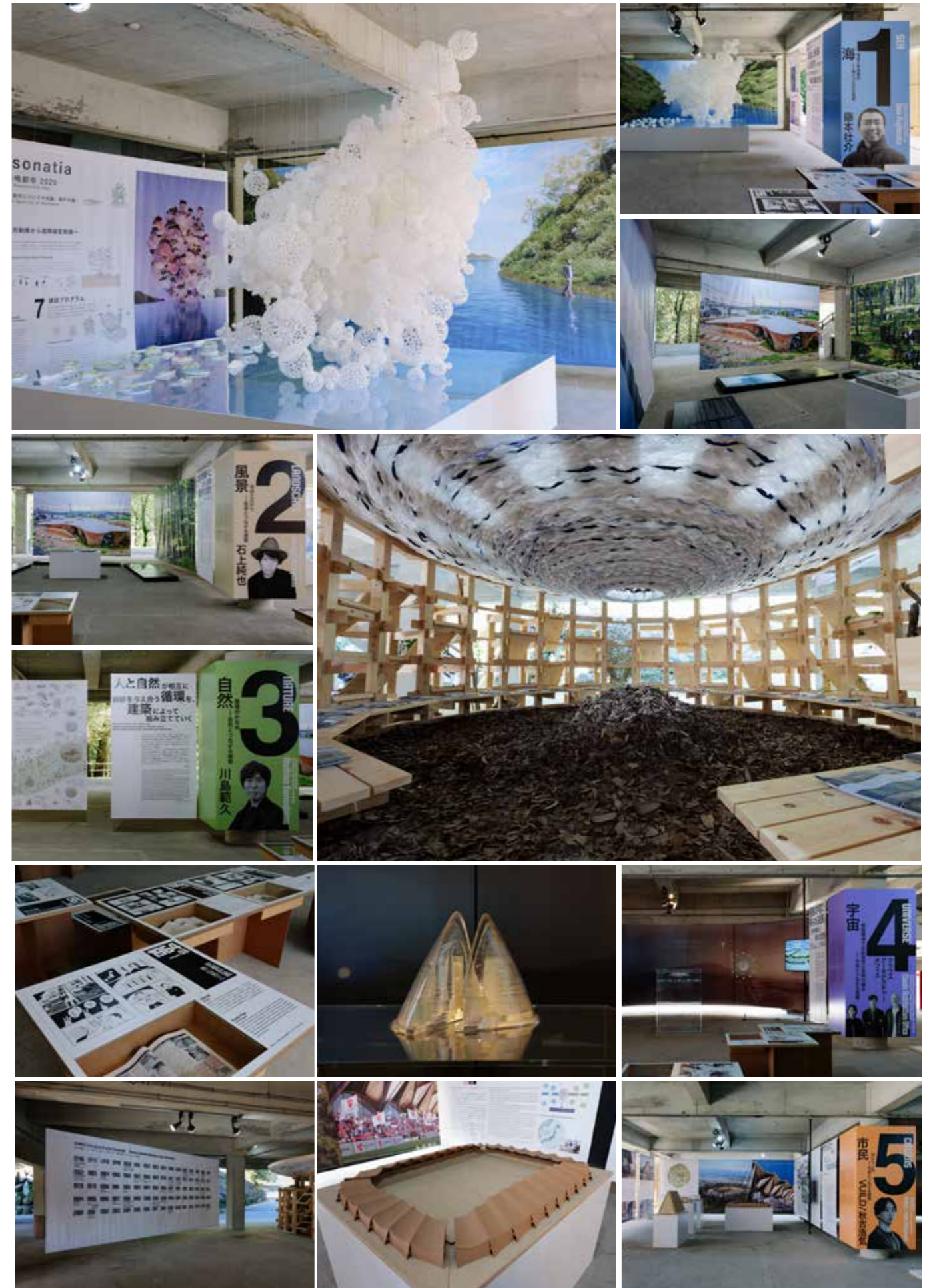
特別協力：京都大学大学院工学研究科建築学専攻 建築史学 ダニエル研究室

広島工業大学環境学部建築デザイン学科 杉田宗研究室、近畿大学工学部建築学科システム工学研究科 藤田慎之輔研究室

吉野銘木製造販売、トリスミ集成材、セイショク、ブランコ、タカムラ産業、みづま工房

展示デザイン：谷川公朗

アートディレクション：小熊千佳子



## ② 神原・ツネイシ文化財団 建築文化再興プロジェクト 「成城の家」の写し—— 丹下健三自邸の再現・予告展

戦後日本の建築界をリードしてきた建築家・丹下健三が、東京・成城に自邸として設計した住居があった（1953年竣工。現存せず）。その伝説的な住居を、瀬戸内海を見下ろす福山市内の丘の上に再現するプロジェクトが進行中だ。この展示では、宮大工が制作した縮尺1/3模型と共に、丹下健三がこの住居のためにデザインした家具や当時の様子を伝える資料類を展示しながら、「過去」の自邸の姿、そして近い将来実現する「未来」の姿を紹介した。

### 〈企画概要〉

展示期間：2025年10月5日（日）～2025年11月30日（日）

会場：神勝寺 禅と庭のミュージアム（無明院・明々軒）

主催：神原・ツネイシ文化財団

出展建築家：丹下健三

協賛：中国新聞社、エフピコ

特別協力：内田道子、溝口至亮（GALLERY-SIGN）、TANGE 建築都市設計、おだわら名工舎

展示デザイン：谷川公朗

アートディレクション：小熊千佳子



## ③ 後山山荘（旧・<sup>あいぜんそう</sup>藹然荘）の100年とその次へ | 福山が生んだ建築家・藤井厚二

「藹然荘」（竣工年不詳）は、福山の豪商「くろがねや」12代当主・藤井与一右衛門が鞆の浦に構えた別邸。1932年頃、弟で建築家の藤井厚二の自邸（聴竹居）の写しといえるサンプールームを増築したと考えられている。しかし長らく人々に忘れられ、77年後に崩壊した姿で発見され、2013年には〈後山山荘〉（改修・設計／前田圭介）の名で、多くの協力者により再生され、現在では多目的に活用されている。本展では、福山が生んだ建築家・藤井厚二の建築をめぐる100年の物語を展示した。

### 〈企画概要〉

展示期間：2025年10月4日（土）～2025年11月30日（日）

会場：ふくやま美術館 ギャラリー

主催：神原・ツネイシ文化財団

出展建築家：藤井厚二、前田圭介

協賛：光和物産、ベッセルグループ、大和建设、タカムラ産業、プランコ

特別協力：谷藤史彦、藤井英博、松隈章、後山山荘倶楽部、竹中工務店、聴竹居倶楽部、諏佐遙也（ZOUZUO MODEL）

企画監修・会場構成：前田圭介（UID）

イラスト：宮沢 洋（BUNGA NET）

アートディレクション：榊原健祐（Iroha Design）



## ④ ナイン・ヴィジョンズ | 日本から世界へ 跳躍する9人の建築家

建築界のノーベル賞と言われる「プリツカー建築賞」を受賞した日本の建築家に焦点を当てる企画展示。「プリツカー建築賞」受賞の日本人建築家は、アメリカと並び8組9人と、世界一の受賞者数を誇る。では、なぜ日本の建築家は世界で評価され、どのようにして世界レベルに達したのか。その魅力と真相に迫る展示を行った。

### 〈企画概要〉

展示期間：2025年10月4日（土）～2025年11月30日（日）

会場：尾道市立美術館

主催：ナイン・ヴィジョンズ展実行委員会（尾道市立美術館、神原・ツネシ文化財団、中国新聞備後本社）

出展建築家：丹下健三（1987年受賞）、槇文彦（1993年受賞）、安藤忠雄（1995年受賞）、妹島和世・西沢立衛 [SANAA]（2010年受賞）、伊東豊雄（2013年受賞）、坂茂（2014年受賞）、磯崎新（2019年受賞）、山本理顕（2024年受賞）

協賛：常石グループ

特別協力：千葉工業大学建築学科 今村創平研究室、京都大学大学院工学研究科建築学専攻 建築史学 デニエル研究室、京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab、マルニ木工、アイティーエル、

展示デザイン：香村翼（香村デザイン室）

照明：高橋典子（灯工舎）

ハイアット財団コーディネーション：吉田実香、デイヴィッド・G・インパー

アートディレクション：榊原健祐（Iroha Design）



## ⑤ Architecture Voice from LOG | 「建築の声」を聞く

大阪を拠点に活動する〈UMA/design farm(ユーエムエー・デザインファーム)〉は、尾道を訪れた際、〈LOG〉を設計したインドの〈スタジオ・ムンバイ〉代表で建築家のビジョイ・ジェイン氏の設計コンセプトや、それを具現化した尾道のスタッフの思いを聞き、どうにかその目に見えない場が発する「声」をデザインで表現できないか、と考えた。試行錯誤の結果生まれたのがこの体験型の展示で、ホテル受付でUMA/design farmがデザインしたLOG体験キットを借り、それを使って施設内を巡るというもの。体験キットはオリジナルクレヨンやフロッタージュのための用紙、集音器などで構成され、建築が発する「声」を収集する。

### 〈企画概要〉

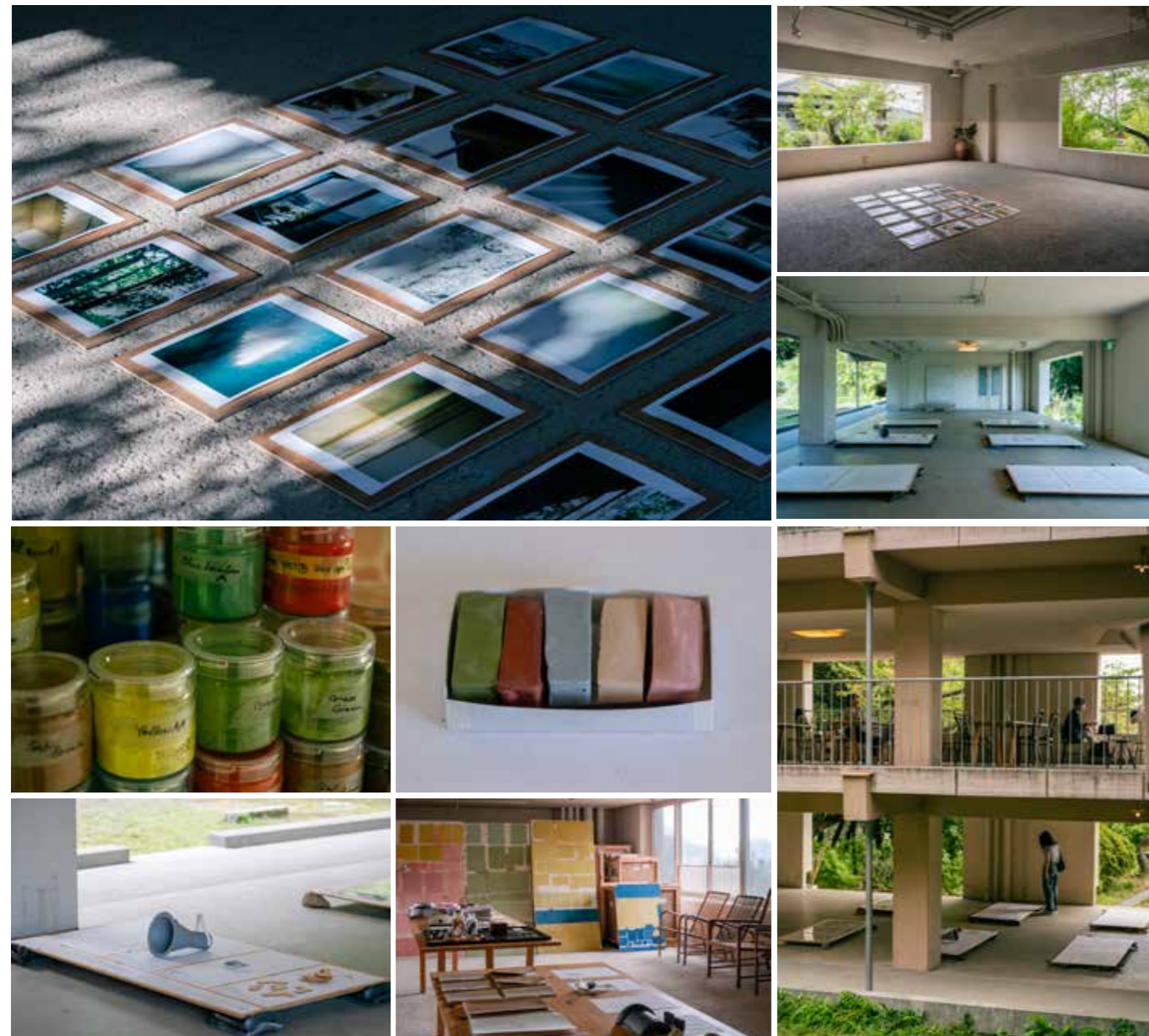
展示期間：2025年10月4日(土)～2025年11月30日(日)

会場：LOG

主催：神原・ツネイシ文化財団

出展作家：スタジオ・ムンバイ/ビジョイ・ジェイン、UMA/design farm

協賛：ヒロマツホールディングス、イズミ



## ⑥ OPEN LLOVE HOUSE | 尾道「半建築」展

建築家・長坂常氏が尾道で一目惚れした空き家を自ら購入しリノベーション、新たな文化交流拠点として再生させた〈LLOVE HOUSE ONOMICHI〉——2022年のオープン以来、期間限定で公開され、国内外のクリエイターが建築やデザイン、アートに関する展示を行ってきた。本建築祭では、長坂氏率いる建築設計事務所〈スキーマ建築計画〉が2025年で設立から27年を迎えることを記念し、OBOGと現スタッフ約40名が自身の携わったプロジェクトや現在の活動を報告。その映像記録などと共に、発行前のスキーマの作品集(書籍)の校正用紙を展示し、スキーマが設計活動のなかで模索してきた、建築と家具の間、脱デスクトップでつくること、未完であることの可能性、見えない開発など。〈LLOVE HOUSE ONOMICHI〉の空間を通して、建築におけるさまざまな「半建築」の可能性を探る展示を行った。

### 〈企画概要〉

展示期間：前期 2025年10月4日(土)～2025年10月13日(月・祝)

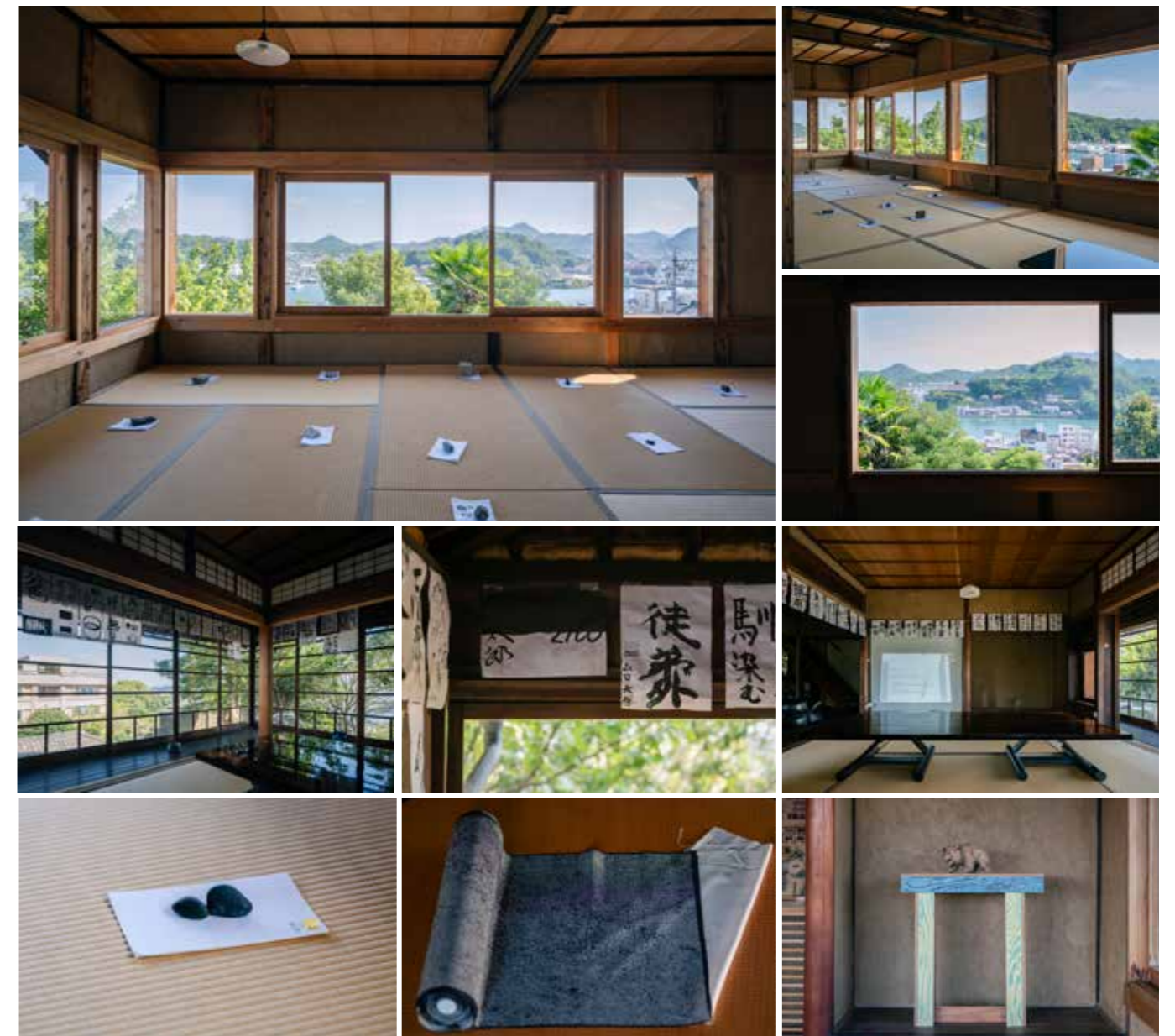
後期 2025年11月22日(土)～2025年11月30日(日) ※会期による展示の変更なし

会場：LLOVE HOUSE ONOMICHI

主催：神原・ツネイシ文化財団

出展建築家：長坂 常+スキーマ建築計画

協賛：安保商店、山丸汽船、PARIGOT、堀田組



## ㊄ うつすからだ、うつしの建築

尾道には、国宝や重要文化財に指定されている古建築から、最新の現代建築、あるいは名もなき建物まで。街の日常生活の中に様々な時代の建築が溶け込んでいる。写真家・高野ユリカはなかでも「うつし」の建築に焦点を当て、浄土寺や茶園・爽籟軒など、写真と映像で、尾道の建築をみずみずしく写し出す。かつて尾道で生活していた人たちの視線を倣い、ここからまた100年先に向けて「うつし」していくように。私たち自身が「うつす」からだとなって、尾道の建築の語りを試みる展示となった。

### 〈企画概要〉

展示期間：2025年10月4日（土）～2025年11月3日（月・祝）

会場：まちなか文化交流館「Bank」

主催：神原・ツネイシ文化財団

出展作家：高野ユリカ（写真家）

協力：尾道市

特別協力：富士フィルムイメージングシステムズ、タテイシ広美社

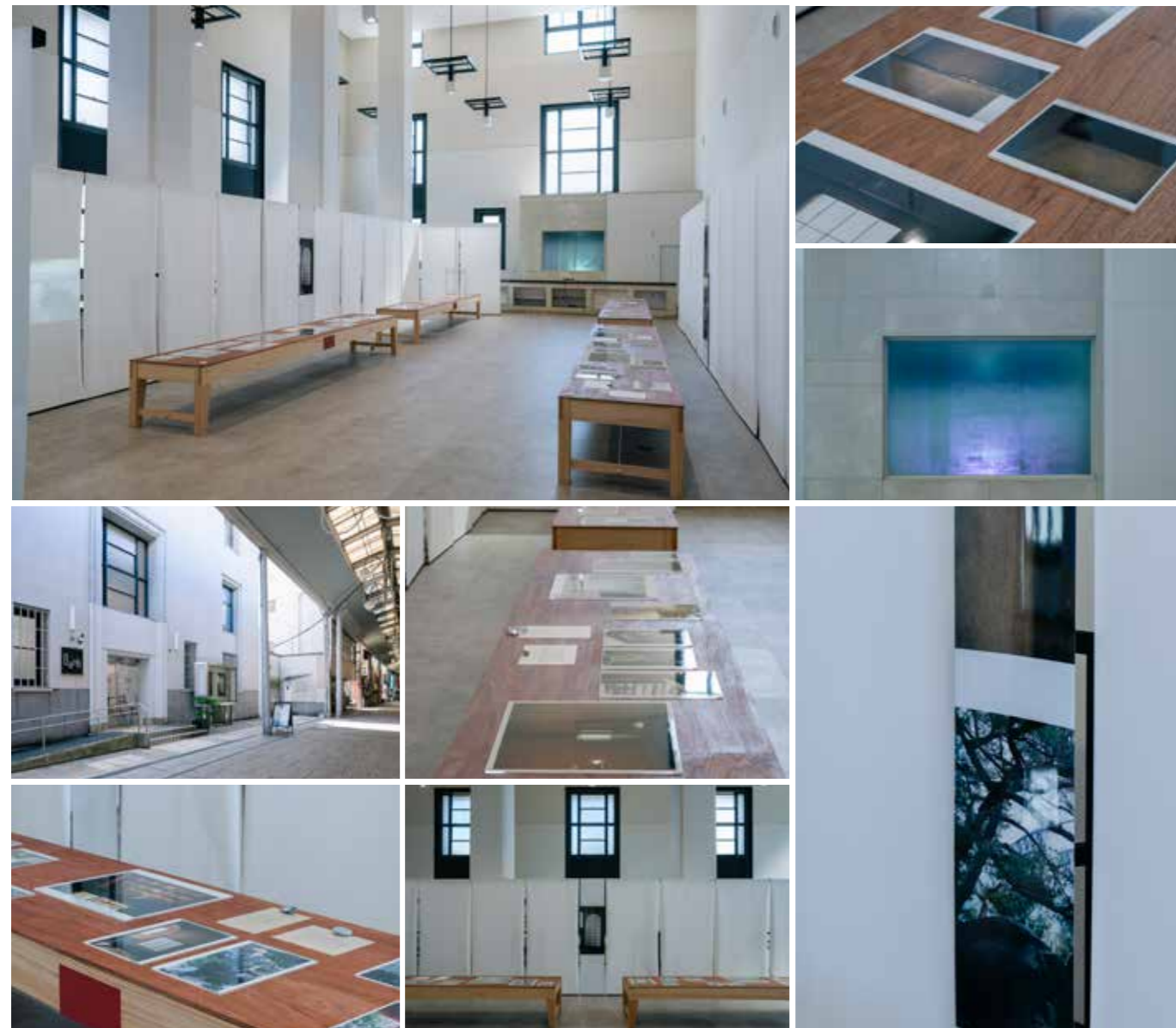
会場構成：大村高広

アートディレクション：本庄浩剛

映像演出：大高隆則

構造設計：木村友美

撮影場所：浄土寺、西國寺、旧土堂小学校、林芙美子記念館、明喜庵（豪商・橋本家別邸内「待庵」うつし）



## ㊄ 「ZINE」から見る日本建築の Now and Then

「ZINE」とはMAGAZINEの「ZINE」から取られた言葉で、自主制作の雑誌や、紙に印刷した自主制作のヴィジュアルブックを指す。この展示では京都を拠点に活動する〈けんちくセンター CoAK（主宰：川勝真一）〉のキュレーションで、日本の若手建築家がつくった「ZINE」や希少な建築系のヴィジュアルブックを集めて展示・一部販売も行った。

### 〈企画概要〉

展示期間：2025年10月4日（土）～2025年11月30日（日）

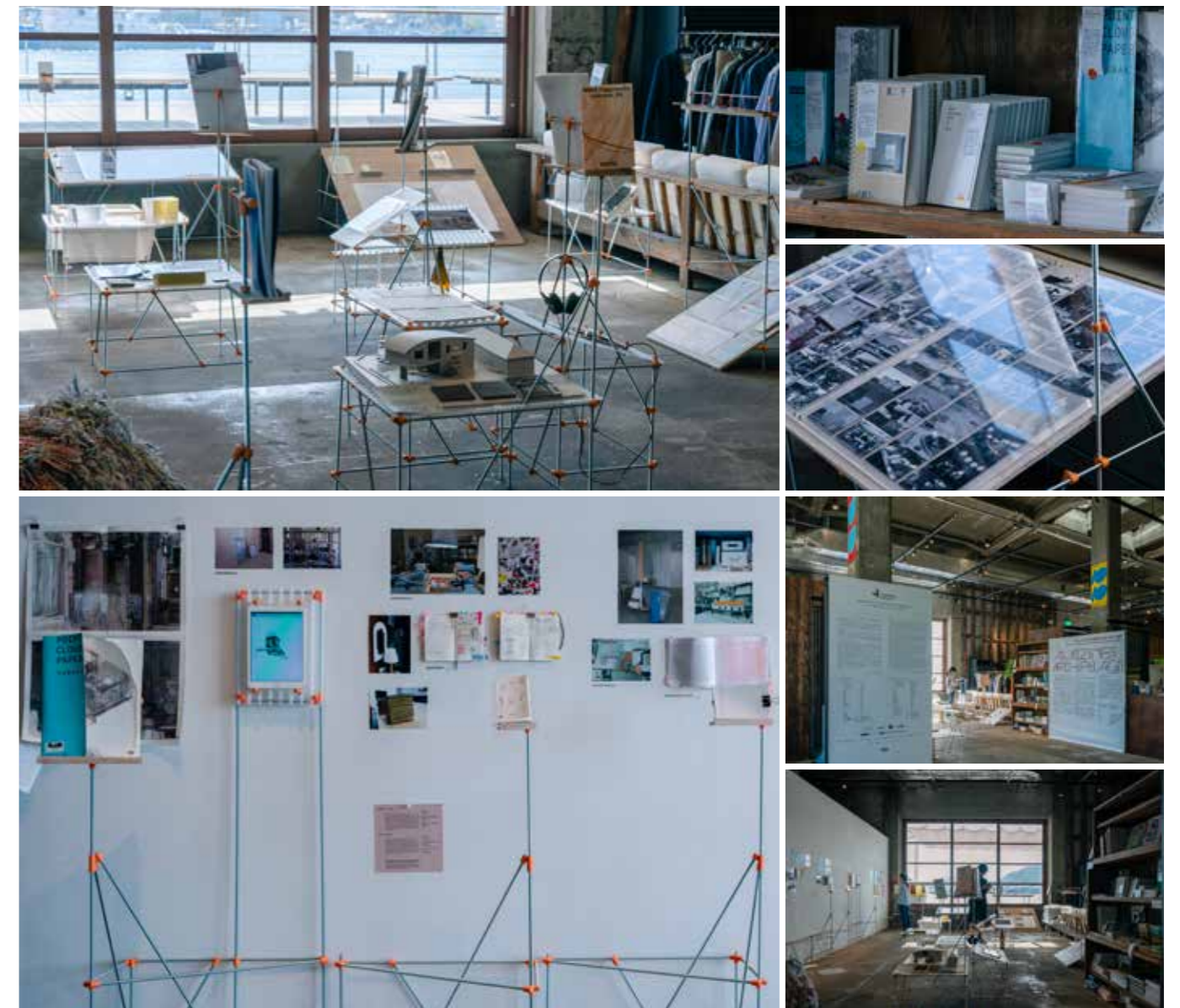
会場：ONOMICHI U2

主催：神原・ツネイシ文化財団

出展者：けんちくセンター CoAK

展示デザイン：中田雅実（studio basket）

アートディレクション：大槻智央（Myaku LLC）



## 移動型キオスク — 小さな建築プロジェクト

普段、「建築」や「建築文化」を意識せずにいる人に向けて、建築祭と日常生活をつなぐタッチポイントとなるべく計画されたのが、「移動型キオスク—小さな建築プロジェクト」である。駅前や港沿いの広場といった人々が多く集まる場所に設置し、鑑賞パスポートを購入せずとも無料で「建築」と触れ合い、建築と人間の良き関係構築を想定し構想された。特に小学生～高校生といった若い世代に向けてのプロジェクトで、その設計・建築費用は、地元企業の協賛で賄われた。また、キオスクは移動や解体・組み立てが容易にできることを念頭に設計されており、次回以降の建築祭でも再び活用される計画である。

### 移動型キオスク—小さな建築プロジェクト 01：「つぼや」

堀部安嗣 × ウッドワン

建築祭の会場のひとつである広島県福山市の〈神勝寺 禅と庭のミュージアム〉にある、作庭家・中根金作による枯山水「無明の庭」に設置。普段は立ち入ることができない庭の中に期間限定で登場し、神勝寺本堂から見る「一幅の画」として、視覚的にも体験的にも心に刻まれる建築となった。「木の文化」の継承者であるウッドワンの哲学を反映しながら、日本の伝統的な手刻み大工技術を用い、羽根建築工房が吉野檜無垢材による小屋を組み上げた。

〈企画概要〉

展示期間：2025年10月5日（日）～2025年11月30日（日）

会場：神勝寺 禅と庭のミュージアム（無明院・無明の庭）

設計：堀部安嗣

協賛：ウッドワン

協力：羽根建築工房

### 移動型キオスク—小さな建築プロジェクト 02：「風景が通り抜けるキオスク(Catch)」

中山英之 × モルテン

建築祭の会場のひとつである広島県尾道市の〈ONOMICHI U2〉に隣接するウォーターフロントの木製デッキの空間、オリーブ広場に設置したキオスク。半透明な膜材の2つの小さな建築による“風景が通り抜ける”キオスクとなっている。2つの建築の蓋をあけるとそれが屋根になり、このキオスクを拠点や舞台に、子供向けのワークショップをはじめとしたイベントが複数回行われた。

〈企画概要〉

展示期間：2025年10月5日（日）～2025年11月30日（日）

会場：ONOMICHI U2 前「オリーブ広場」

設計：中山英之

協賛：モルテン

### 移動型キオスク—小さな建築プロジェクト 03：「雲がおりる」

石上純也 × 常石造船・ツネイシカムテックス

『ひろしま国際建築祭 2025』の玄関口となる山陽新幹線 JR 福山駅南口に設置されたキオスクで、インフォメーションセンターとして情報発信や来訪者の交流を促した。設計者である建築家・石上純也氏は、常石造船の工場を見学した際、鋼板を三次元に曲げながら溶接し巨大な船を組み立てていくその迫力に圧倒された。このキオスクでは、船を作るように鋼板を三次元に曲げ溶接し、ちょうど船を横に傾けたような状態で設置した。設置のバランスはおきあがりこぼしの原理で、足元を重くすることで成り立たせている。倒れるか倒れないかギリギリの感覚で地面に設置している風景は、まるで雲が優しく陸を触るかのような感覚を想起させる。

〈企画概要〉

展示期間：2025年10月9日（木）～2025年11月30日（日）

会場：JR 福山駅南口

設計：石上純也

協賛：常石造船、ツネイシカムテックス





### Ⅲ． オープニングレセプション・ イベント・ワークショップ

本祭典が地域に開かれ、根ざし、持続・発展することを目的に、人・場・建築文化の3つの可能性を活かした多様なトークイベント、ワークショップ、ツアーなどを企画し、一般向けに26種類のプログラム（トークイベント：10、ワークショップ：5、関連イベント・ツアー 11）を行った。開催回数は総計34回、総計約3,000名が参加した。

オープニングレセプション

## ひろしま国際建築祭 2025 オープニングレセプション

開幕初日に出演作家・建築家や関係者を招いてのオープニングレセプションを行った。大般若法要の後、舞踏家・荻 英里香氏による建築祭の成功と平和を祈念した舞と、内田輝氏によるグラヴィーコードの演奏が披露され、式典後は『ひろしま国際建築祭 2025』が掲げる総合テーマ「つなぐ——「建築」で感じる、私たちの“新しい未来” Architecture : A New Stance for Tomorrow」を食の観点から表現した「neutral」北嶋竜樹氏の料理と、奈良「萬御菓子詠處 榎舎」の喜多誠一郎氏による和菓子などが提供された。

開催日時 2025年10月4日(土) 15:30～17:30  
 会場 神勝寺 禅と庭のミュージアム  
 無明院  
 出席者数 230名



トークイベント

## ひろしまから世界へ— 建築祭オープニング・プレミアトーク Presented by marimo

開幕翌日、国内外の出演建築家を招いた豪華トークを開催。伊東豊雄氏の基調講演に始まり、出演建築家たちがプレゼンテーション。5時間におよぶ長時間のプログラムであったが、参加者は建築文化への理解を深め、ひろしまから世界へ発信する可能性を体感。建築祭の充実したスタートとなった。

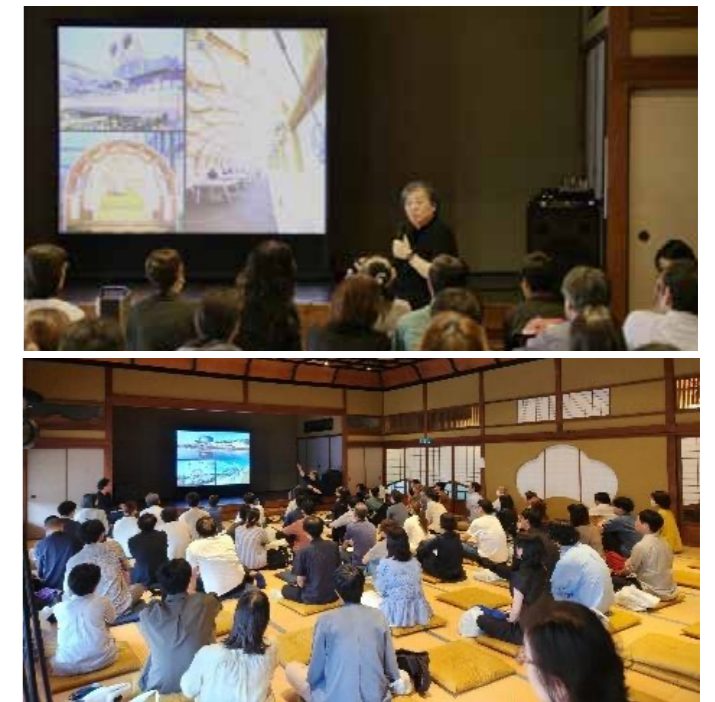
開催日時 2025年10月5日(日) 13:00～18:00  
 会場 iti SETOUCHI コワーキングスペース tovio  
 参加費 5,000円 [鑑賞バスポート付] (事前予約制)  
 登壇者 伊東豊雄 (建築家)  
 鈴木久雄 (写真家)  
 ※体調不良のためオンライン参加  
 川島範久 (建築家)  
 VUILD / 秋吉浩気 (建築家)  
 Clouds Architecture Office (建築家)  
 石上純也 (建築家)  
 [モデレーター]  
 白井良邦 (ひろしま国際建築祭 2025 総合ディレクター)  
 前田尚武 (ひろしま国際建築祭 2025 チーフキュレーター)  
 筒井彩 (ひろしま国際建築祭 2025 キュレーター)  
 参加者数 114名  
 協賛 マリモ



## 坂 茂 講演会「作品づくりと社会貢献の両立を目指して」

出演建築家のひとり、プリツカー建築賞受賞建築家・坂 茂氏の講演会を開催。初期から続く紙管建築や阪神淡路大震災から現在まで世界各地で活動する災害支援など、作品づくりと社会貢献を両立させる氏の建築思想が語られた。世界的建築家の生の声から、建築の社会的価値を考察する貴重な機会となった。

開催日時 2025年10月11日(土) 16:00～17:30  
 会場 松翠園/大広間  
 参加費 無料 (事前予約制)  
 登壇者 坂 茂 (建築家)  
 [モデレーター] 白井良邦  
 (ひろしま国際建築祭 2025 総合ディレクター)  
 参加者数 68名



## 最小単位の建築実践：Archizines の作り方・つかい方

〈ONOMICHI U2〉での展示『「ZINE」から見る日本建築の Now and Then』に併せて、建築の背景や考え方などを ZINE (自主制作の実験的な雑誌・書籍) というかたちで表現している二人の若手建築家を迎え、それぞれの ZINE 制作についての紹介を軸に、建築を伝えるもう一つの実践について話を聞いた。

開催日時 2025年10月25日(土) 16:00～17:00  
 会場 ONOMICHI U2 (The RESTAURANT)  
 参加費 1,000円 [ワンドリンク付] (事前予約制)  
 登壇者 工藤桃子 (建築家)  
 森 純平 (建築家)  
 [モデレーター] 川勝真一 (建築キュレーター)  
 参加者数 29名



ワークショップ

## ひろしまたてもものがたりフェスタ 2025 連携企画 Vol.1 「瀬戸内海に築かれた文化：戦後建築の軌跡とその現在」

「ひろしまたてもものがたりフェスタ」連携企画として、瀬戸内の戦後建築をテーマに講演会を開催。地域建築の歴史と現在を振り返り、価値を再発見。専門家の講演で瀬戸内の建築文化の豊かさが明らかにされ、参加者は理解を深めた。無料開催で多くの市民が建築文化に触れる機会となった。

**開催日時** 2025年10月18日(土) 第1部 13:00～14:10 第2部 14:30～15:40  
**会場** 広島県立歴史博物館 講堂  
**主催** 広島県、ひろしま国際建築祭(神原・ツネイン文化財団)  
**参加費** 無料(事前予約制)  
**登壇者** 第1部 藤本寿徳(建築家) / 前田圭介(建築家)  
 第2部 谷藤史彦(下瀬美術館 元副館長) / 藤井英博(後山山荘オーナー)  
 前田圭介(建築家) / 松隈章(竹中工務店、聴竹居倶楽部代表理事)  
 [司会] 白井良邦(ひろしま国際建築祭 2025 総合ディレクター)  
 [モデレーター] 前田尚武(ひろしま国際建築祭 2025 チーフキュレーター)  
**参加者数** 141名



## 布を張り、ベンチを組み、庭をかたちづくる建築ワークショップ — 伝統工法でつくられたストックヤードのテキスタイル施工とコンポストベンチの制作 —

近隣地域に住む建築に関心を持つ大学生を対象に、布や木材などの素材を扱い、施工・組立・採集のプロセスを体験することで、建築と自然循環をつなぐデザインの可能性を学ぶワークショップを実施した。

**開催日時** 2025年9月22日(月)、23日(祝・火)  
 9:00～17:00  
**会場** 神勝寺 禅と庭のミュージアム  
**対象** 建築に関心のある大学生  
**参加費** 無料(事前予約制)  
**講師** 川島範久建築設計事務所スタッフ+テキスタイルデザインチーム  
**参加者数** 22日10名 / 23日17名



## ひろしまたてもものがたりフェスタ 2025 連携企画 Vol.2 「瀬戸内海に築かれた文化：戦後建築の軌跡とその現在」

Vol.1に続く連携企画第2弾を福山市で開催。広島を拠点に活躍する建築家・村上徹氏と2024年、世界的な建築賞であるプリツカー建築賞受賞建築家・山本理顕氏の特別講演を開催。無料開催で地元市民含む多様な参加者が集い、建築文化の裾野を広げた。

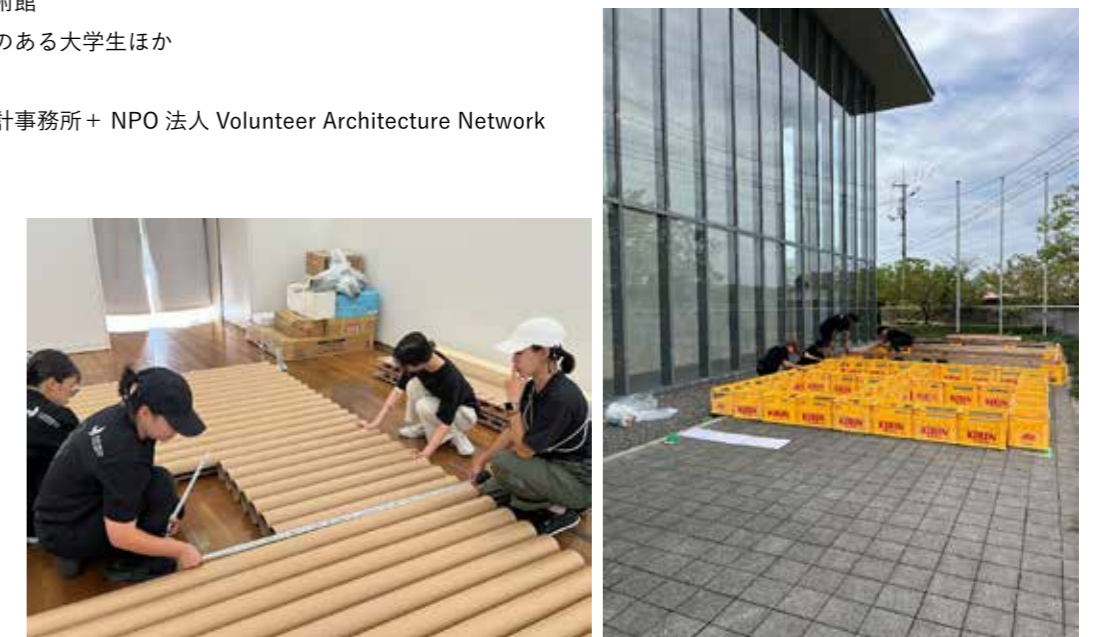
**開催日時** 2025年10月26日(日) 第1部 13:00～14:10 第2部 14:30～15:40  
**会場** ふくやま美術館 ホール  
**主催** 広島県、ひろしま国際建築祭(神原・ツネイン文化財団)  
**参加費** 無料(事前予約制)  
**登壇者** 第1部 村上徹(建築家)  
 第2部 山本理顕(建築家)  
 [司会] 白井良邦  
 (ひろしま国際建築祭 2025 総合ディレクター)  
**参加者数** 82名



## 「紙のログハウス」制作ワークショップ

1995年の阪神・淡路大震災の際に建築家・坂茂氏が被災地につくった「紙のログハウス」を、学生を中心としたボランティアスタッフと共に、組み立てるワークショップを行った。

**開催日** 2025年9月25日(木)～9月30日(火)  
**会場** 尾道市立美術館  
**対象** 建築に関心のある大学生ほか  
**参加費** 無料  
**講師** 坂茂建築設計事務所+ NPO 法人 Volunteer Architecture Network  
**参加者数** 延べ46名



## 椅子づくりやノコギリ、かな削りを体験できる大工ワークショップ

建築家・堀部安嗣氏が設計した移動型キオスク「つぼや」の制作に携わった羽根建築工房の羽根信一氏や大工職人とともに、宮大工の手法を取り入れた大工仕事を体験するワークショップを実施。参加者は、木材の特性や大工技術の基礎、伝統的な手法に触れながら、手仕事の魅力を学び、オリジナルの椅子を製作した。

**開催日時** 2025年10月19日(日)  
[1部] 11:00～12:00 [2部] 13:00～14:00 [3部] 15:00～16:00

**会場** 神勝寺 禅と庭のミュージアム

**対象** 小学生(保護者同伴)

**参加費** 無料  
[保護者のみ鑑賞パスポートが必要](事前予約制)

**講師** 羽根建築工房、手刻み同好会

**参加者数** 1部 9名 / 2部 8名 / 3部 11名

**協賛** テラル



## 庭園でまなぶ、親子の循環ワークショップ — 神勝寺の庭を舞台にしたコンポストづくり体験 —

自然豊かな庭園を巡りながら、落ち葉や植物などの自然素材を観察し、常に美しい庭園がどのように管理されているかを学ぶプログラムを実施。あわせて、学生が制作した「コンポストベンチ」に自然素材を投入し、堆肥化の仕組みを実際に体験した。

**開催日時** 2025年11月2日(日)、3日(祝・月)

**会場** 各日 [1部] 10:00～12:00 [2部] 14:00～16:00  
神勝寺 禅と庭のミュージアム

**対象** 小学生(保護者同伴)

**参加費** 無料  
[保護者のみ鑑賞パスポートが必要](事前予約制)

**講師** 川島範久建築設計事務所スタッフ

**参加者数** 2日 11名 / 3日 10名

**協賛** ホーコス



## こども向け週末ワークショップ at (Catch) 尾道オリーブ広場

木の実や小枝、風船、貝殻など多様な素材を用い、自由に絵画や工作を楽しむワークショップを開催。また、来場者を楽しんでもらうため、移動型キオスク「風景が通り抜けるキオスク (Catch)」の設計者である建築家・中山英之氏が、尾道水道を背景としたキオスク (Catch) の手描きイラストによる塗り絵を制作し提供。こどもから建築ファンまで幅広い層が参加し、楽しめる体験となった。

**開催日時** 2025年11月8日(土)、9日(日)、15日(土)、16日(日)、  
22日(土)、23日(日)、24日(祝・月)、29日(土)、30日(日)  
[全9日]

各日 11:00～16:00

**会場** オリーブ広場 (ONOMICHI U2 前)

**参加費** 無料

**参加者数** 9日間 延べ1,513名



特別応援プログラム

「ひろしま国際建築祭 2025」に関連する著名な建築家やアーティストの協力のもと、建築家自らが作品や建築物の前で、設計の背景や制作過程について語り、参加者と交流する支援型特別プログラムを開催。本プログラムの収益は、建築祭の運営費用として活用した。



特別応援プログラムの冊子  
デザイン：小熊千佳子

建築家・長坂常氏による 2026年 秋完成予定  
「神勝寺 禅と庭のミュージアム」宿坊構想プラン説明と  
長坂常氏の設計した非公開宿泊棟と BAR の見学

(昼食・神勝寺弁当 / ひろしま国際建築祭鑑賞パスポート付)

開催日時 2025年10月25日(土)  
10:00～14:00 [3部制]  
参加費 70,000円  
モデレーター 白井良邦 (ひろしま国際建築祭 2025 総合ディレクター)  
協力 神勝寺 禅と庭のミュージアム  
参加人数 計16名



彫刻家・名和晃平氏による「神勝寺 禅と庭のミュージアム」  
アートパビリオン《洗庭》の制作秘話トークセッション

(ひろしま国際建築祭鑑賞パスポート付)

開催日時 2025年11月6日(木)  
12:50～14:40  
参加費 50,000円  
モデレーター 白井良邦 (ひろしま国際建築祭 2025 総合ディレクター)  
協力 神勝寺 禅と庭のミュージアム  
茶菓 京都「Farmoon」船越雅代氏  
参加者数 計15名



建築家・堀部安嗣氏と行く ガンツウ特別ランチクルーズ

(ひろしま国際建築祭・鑑賞パスポート付き)

開催日時 2025年11月10日(月)  
10:00～15:00  
参加費 300,000円  
モデレーター 白井良邦 (ひろしま国際建築祭 2025 総合ディレクター)  
協力 せとうちクルーズ  
参加者数 21名



## 建築家・石上純也氏と財団理事長との特別晚餐会

「神勝寺 禅と庭のミュージアム」貸切・夜のライトアップ鑑賞  
(ひろしま国際建築祭・鑑賞パスポート付)

開催日時 2025年11月16日(日)  
17:00～20:00  
参加費 150,000円  
モデレーター 前田尚武(ひろしま国際建築祭2025チーフキュレーター)  
協力 神勝寺 禅と庭のミュージアム  
館 淡路島「瓦(のぶ)」  
参加者数 9名



## 建築家・藤本壮介氏と財団理事長との特別晚餐会

「神勝寺 禅と庭のミュージアム」貸切・夜のライトアップ鑑賞  
(ひろしま国際建築祭・鑑賞パスポート付)

開催日時 2025年11月23日(日)  
17:00～20:00  
参加費 150,000円  
モデレーター 白井良邦(ひろしま国際建築祭2025総合ディレクター)  
協力 神勝寺 禅と庭のミュージアム  
館 淡路島「瓦(のぶ)」  
参加者数 11名



## 連携イベント

## 子どもの五感を(Catch)する秋の収穫カーニバル『Catch the Fall』開催

『ひろしま国際建築祭2025』の一環として、『Catch the Fall』と題した、「建築、音楽、ごはん」をテーマにした秋の収穫祭を開催。建築家・中山英之氏デザインの移動型キオスク「風景が通り抜けるキオスク(Catch)」や周辺デッキを舞台に、neutral 監修の「秋の味覚」とともに、子どもも大人も楽しめるイベントとなった。

開催日時 2025年11月1日(土) 11:00～16:00  
会場 オリーブ広場(ONOMICHI U2前)  
内容 13:00 音楽家 ICHI LIVE  
14:00 てづくり楽器ワークショップ  
15:00 ICHI と子どもの音楽隊  
秋の味覚マルシェ  
[京都 neutral / ヴィーガン料理家・隅岡樹里]  
協力 モルテン  
参加者数 約200名



## 音楽家 ICHI による てづくり楽器ワークショップ

イギリスを拠点に活動する音楽家 ICHI 氏による「てづくり楽器ワークショップ&演奏会」を開催。どんぐりや小枝などの自然素材を用いて楽器を制作し、参加者それぞれが自作した楽器を使い、ICHI 氏とともに即興演奏を行った。

開催日時 2025年11月1日(土) 14:00～15:30  
会場 オリーブ広場(ONOMICHI U2前)  
対象 3歳以上  
参加費 無料(事前予約制)  
講師 音楽家 ICHI  
参加者数 22名



## 『Catch the Scent』mitosaya 薬草園蒸溜所 ～房総から瀬戸内へ、植物と表現をめぐる旅～ 開催

「風景が通り抜けるキオスク（Catch）」を設計した建築家・中山英之氏が改修デザインを手掛けた 房総 mitosaya 薬草園蒸溜所からゲストを招き、キオスクを囲んだワークショップとトークイベントを開催した。

- 開催日時 2025年11月15日（土）13:00～17:00
- 会場 オリーブ広場（ONOMICHI U2 前）
- 内容 13:00 植物の色と香りを楽しむワークショップ  
15:00 江口宏志×中山英之トークイベント  
mitosaya 薬草園蒸溜所 POP UP shop 営業
- 参加者数 約50名



## 植物の色と香りを楽しむワークショップ

尾道水道を眺めながら、房総・mitosaya の庭で育つ植物から抽出したインクを用いたワークショップを開催した。

- 開催日時 2025年11月15日（土）  
[1部] 13:00～14:00 [2部] 14:00～15:00
- 会場 オリーブ広場（ONOMICHI U2 前）
- 対象 年齢制限なし
- 参加費 1,000円 [中学生以下 無料]
- 講師 山本祐布子（mitosaya 薬草園蒸溜所）
- 参加者数 1部9名 / 2部7名



## ひろしまてもものがたり 連携企画

広島県が県内の魅力的な建築物を「見て・触れて・知る」ことを目的に運営する「ひろしまてもものがたり」のイベント「ひろしまてもものがたりフェスタ2025」と連携し、今回初めて福山・尾道を舞台としたイベントを開催。記念シンポジウムでは、建築祭にゆかりのある登壇者を迎え、共同主催により実施した。



## 尾道市立美術館 ギャラリートーク

展示「ナイン・ヴィジョンズ」の担当キュレーターが、展示内容や見どころについて、来場者とともに会場を巡りながら解説を行った。

- 開催日時 2025年10月25日（土）  
14:00～14:45
- 会場 尾道市立美術館
- 主催 尾道市立美術館
- 協力 ひろしま国際建築祭  
（一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団）
- 参加費 無料 [会場入場は鑑賞パスポートが必要]
- 解説 香村ひとみ（ひろしま国際建築祭2025キュレーター）
- 参加者数 19名

## 尾道市立美術館 こどもと大人の鑑賞会

中学生以下の子どもを対象とした鑑賞会を開催。尾道市立美術館のキュレーターによる案内のもと、日本の建築家や建築文化への関心を高める取り組みを行った。

**開催日時** 2025年10月19日(日)、11月16日(日) 14:00～15:00  
**会場** 尾道市立美術館  
**主催** 尾道市立美術館  
**協力** ひろしま国際建築祭(一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団)  
**参加費** 無料 [会場入場は鑑賞パスポートが必要]  
**参加者数** 10/19 21名、11/16 47名



## 建築家・長坂常 + studio basket トークイベント「半トーク番外編」

閉幕直前、長坂常氏のトークイベントを尾道で開催。神勝寺の宿坊構想や建築への思いを語った。事前申込不要で気軽に参加でき、長坂氏の建築哲学に触れる貴重な機会に。建築祭を締めくくる熱気あふれるトークが展開された。

**開催日時** 2025年11月29日(土) 18:00～  
**会場** LLOVE HOUSE ONOMICHI  
**主催** スキーマ建築計画  
**協力** ひろしま国際建築祭  
(一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団)  
**参加費** 無料 [会場入場は鑑賞パスポートが必要]  
**登壇者** 長坂常(建築家)  
 studio basket(建築家)  
**参加者数** 52名



## 川島範久 展示解説ツアー＋若手建築家クロストーク

「循環の建築」をテーマにした川島範久氏の展示解説ツアーと若手建築家とのトークを実施。神勝寺庭園を舞台にした展示の制作背景や思想を直接聞く貴重な機会に。川島氏の展示作品の内部で、次世代への継承や新たな実践の可能性を議論し、参加者とも活発な議論が交わされ、親密な時間がもたらされた。

**開催日時** 2025年11月22日(土) 14:30～16:00  
**会場** 神勝寺 禅と庭のミュージアム 『NEXT ARCHITECTURE』  
 特設会場  
**主催** 川島範久建築設計事務所  
**協力** ひろしま国際建築祭(一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団)  
**参加費** 無料 [会場入場は鑑賞パスポートが必要] (事前予約制)  
**登壇者** 川島範久(建築家) / 木内俊克(建築家)  
 桐 圭佑(建築家) / 工藤浩平(建築家) / 佐々木慧(建築家)  
**参加者数** 約40名



## 「シネマ尾道」連携企画 特集上映『映画の中の建築』

『ひろしま国際建築祭 2025』の開催を記念し、駅前に位置する映画館「シネマ尾道」にて、建築家や建築をテーマとした映画や、有名建築が登場・舞台となっている映画を上映した。上映期間：2025年9月20日(土)～11月14日(金)  
 「シネマ尾道」は、1947年に演劇場として営業を開始し、1962年の建て替えから現存する、市民に支えられながら尾道の映画文化を守るためにNPO法人が運営している尾道市唯一の映画館。

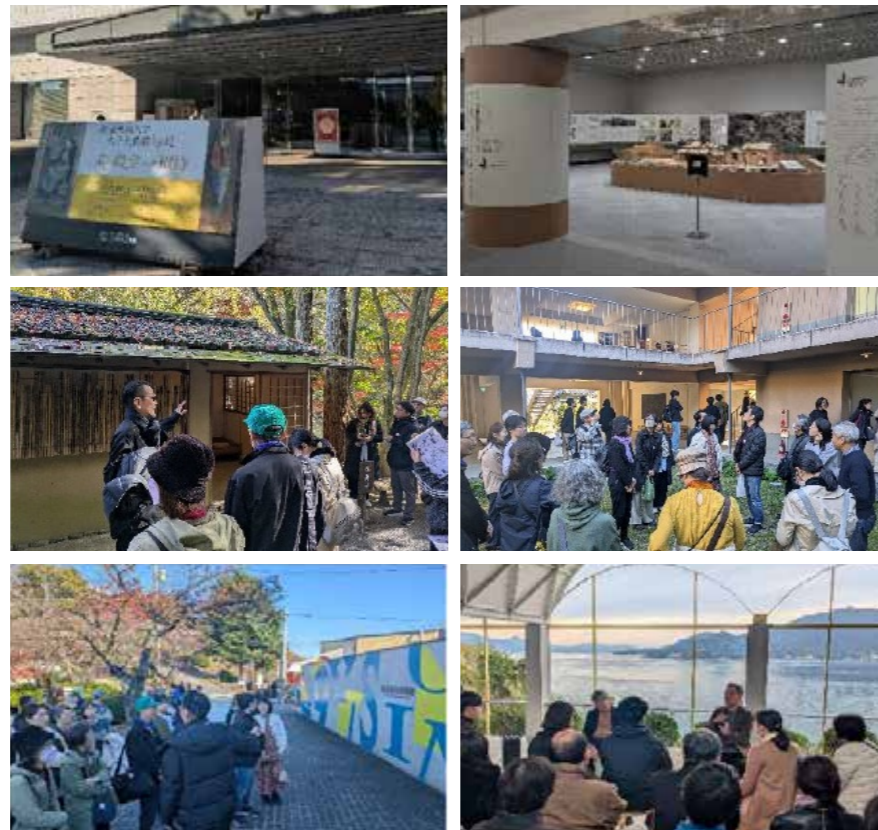
上映作品	監督	上映期間	鑑賞者数
『軽蔑 4K レストア版』	ジャン＝リュック・ゴダール	2025年9月20日(土)～9月26日(金) 9:30～11:20	75名
『だれも知らない建築のはなし』	石山友美	2025年10月4日(土)～10月10日(金) 11:15～12:35	68名
『ブルータリスト』	ブラディ・コーベット	2025年10月25日(土)～10月31日(金) 14:20～18:20	60名
『アアルト』	ヴィルピ・スータリ	2025年11月8日(土)～11月14日(金) 9:00～10:50	76名

[料金] 一般1,800円/大学生以下1,000円/シニア(60歳以上)1,300円/3歳以下 無料

## リョービツアーズ ひろしま国際建築祭 2025 オフィシャルツアー

『ひろしま国際建築祭 2025』では、展示会場や周辺の建築をバスで効率的に巡るオフィシャルツアーを実施。キュレーターや専門スタッフによる解説を通じて、展示作品の背景や地域の建築文化への理解を深める機会を提供した。

ツアー名	ふくやま美術館・後山山荘コース	神勝寺・尾道市立美術館・LOG・ONOMICHI U2 コース	伊東豊雄&丹下健三 建築鑑賞コース (伊東豊雄氏レクチャー付き)
開催日	2025年11月22日(土) 9:30～16:30	2025年11月23日(日) 10:00～16:45	2025年11月24日(祝月) 8:30～18:30
コース	ふくやま美術館ー鞆の浦 (後山山荘ガイド案内・鞆の浦散策) ー福山駅南口	福山駅ー神勝寺[昼食] ー尾道市立美術館…LOG(鑑賞) ーONOMICHI U2ー福山駅南口	福山駅前ー尾道駅前ー尾道市立美術館ー (しまなみ海道)ーポナプール楽生苑ー今 治市伊東豊雄建築ミュージアム[昼食弁 当]ー今治市岩田健母と子のミュージアム ー今治市庁舎本館・今治市公会堂・今治 市民会館ー尾道駅前ー福山駅前
ガイド	後山山荘倶楽部	ひろしま国際建築祭 2025 チーフキュレーター前田尚武	伊東豊雄建築ミュージアム：建築家・伊 東豊雄氏 今治市庁舎本館・今治市公会堂・今治市 民会館：建築史家・倉方俊輔氏
参加費	5,000円 [鑑賞パスポート各自持参]	11,000円(昼食付) [鑑賞パスポート各自持参]	14,000円 (大学生まで4,000円引き) [鑑賞パスポート各自持参]
参加者数	8名	28名	36名



## IV. 鑑賞パスポート・チケット

『ひろしま国際建築祭 2025』では、6つの有料展示会場を巡回できる「鑑賞パスポート」を導入。

パスポートは3日間有効(連続使用)とし、電子・紙製チケットともにQRコードで入場管理を行った。販売はオンラインと窓口で実施し、高校生以下および障がい者とその同伴者1名はオンライン申請により全展示を無料とした。

また、尾道市立美術館の展示「ナイン・ヴィジョンズ」については、主催の「ナイン・ヴィジョンズ展実行委員会」(官民共同)の要望により、単館チケットを別途販売した。

## 券種・料金

区分	オンライン販売 [電子チケット/パウチャー]	窓口販売 [紙製チケット]
3Day 鑑賞パスポート (一般)	2,500 円	3,000 円
3Day 鑑賞パスポート (高校生以下)	無料	無料
3Day 鑑賞パスポート (障がい者)	無料	無料
特別招待券 [3Day 鑑賞パスポート]	—	無料
招待券 [3Day 鑑賞パスポート]	無料	無料
尾道市立美術館 鑑賞チケット (一般)	—	1,000 円
尾道市立美術館 鑑賞チケット (学生)	—	800 円
尾道市立美術館 単館 招待券	—	無料

## 鑑賞パスポート



表面 一般



高校生以下



障がい者



オンライン購入引換



裏面 共通



表面 特別招待券



招待券



裏面 共通

デザイン：UMA / design farm

## 尾道市立美術館 鑑賞チケット



一般 (表/裏)

学生 (表/裏)

招待券 (表/裏)

デザイン：榑原健祐 (Iroha Design)

## 販売期間

オンライン販売 2025年7月1日～11月30日  
※チケットぴあは、11月29日23:59まで販売

窓口販売・引換 2025年10月4日～11月30日  
※神勝寺 禅と庭のミュージアムは、10月5日より販売開始

## 販売箇所

オンライン販売 ArtSticker、チケットぴあ、コンビニエンスストア端末  
窓口販売・引換 神勝寺 禅と庭のミュージアム、JR福山駅南口キオスク、尾道市立美術館、ONOMICHI U2、LOG

	販売代理店	オンライン販売	窓口販売・引換
オンライン	ArtSticker	QRコード発行(端末)	—
	チケットぴあ	引換番号発行(コンビニ引換)	—
コンビニ等	チケットぴあ(Pコード:995-590)	パウチャー	—
会場	神勝寺 禅と庭のミュージアム	—	紙製チケット(鑑賞パスポート)
	JR福山駅南口キオスク	—	紙製チケット(鑑賞パスポート)
	尾道市立美術館	—	紙製チケット (鑑賞パスポート/鑑賞チケット)
	ONOMICHI U2	—	紙製チケット(鑑賞パスポート)
	LOG	—	紙製チケット(鑑賞パスポート)





## V. 公式グッズ・クラウドファンディング・ふるさと納税・スポンサー協賛

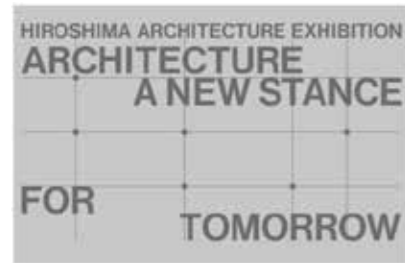
『ひろしま国際建築祭 2025』に合わせて、Tシャツ、トートバッグ、ハンカチ、鉛筆、ノートなどをオリジナルで制作、公式グッズとして会場で販売し展示運営費に充てた。また、出展建築家の関連書籍、出展建築家が選定した建築関連商品なども公式グッズと共に販売を行った。

クラウドファンディングサイト「READYFOR」にて、クラウドファンディングを実施、サポーター向けのオリジナルの返礼品なども制作し、『ひろしま国際建築祭 2025』の周知と賛同を図ると共に資金調達を行った。またふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」を活用した資金調達も実施した。

## 公式グッズ

グラフィックデザイナーの樋口舞子氏がデザインした公式グッズを販売。建築祭タイトルの「Architecture: A New Stance for Tomorrow」を用いたロゴデザイン。Tシャツ、縦織網サコッシュバッグ、トートバッグ、ハンカチ、HB えんぴつ、測量野帳、ステッカーなど計20アイテムを展開した。

### 公式グッズ ロゴ



ロゴ・デザインは、グリッドを構成しグラフィックを展開した。グリッドは、瀬戸内海の水平線や建築の設計図面・鉄筋・金属など、瀬戸内と建築の要素から着想を得ている。

- ・キーカラー：群青色（海・波風の揺らぎ）×シルバー（建築資材）
- ・ロゴタイプ：水平線×軸線と点×揺らぎ

ロゴデザイン 樋口舞子 / グラフィックデザイナー（オランダ・アムステルダム在住）

販売場所 神勝寺 禅と庭のミュージアム、尾道市立美術館、ONOMICHI U2、LOG、広島 T-SITE | 蔦屋書店



Tシャツ Grid T-shirt 各4,400円  
[色] white / blue [サイズ] S / M / L

Slogan T-shirt 各4,400円  
[色] white / black / blue [サイズ] S / M / L / XL



縦織網サコッシュバッグ 1,650円  
[色] white / black



トートバッグ 各2,800円  
[色] white / brown / gray / blue



ハンカチ 各1,650円  
[色] LOG / U2 / 神勝寺 / 瀬戸内海



HB 鉛筆 130円 [色] white



ステッカーセット(3枚) 1,250円



測量野帳 各1,200円 [色] white / gray / black

## オフィシャルブック

『ひろしま国際建築祭 2025』全体を網羅した記録集的な書籍と、「ナイン・ヴィジョンズ」展示の書籍の発行を予定している。



### Architecture: A New Stance for Tomorrow 「建築」で未来は切り拓けるか？

発行日	2026年夏発行予定
判型等	B5変形 192ページ(予定)
販売額	3,500円(国内大型書店、Amazon等で販売)
著者	神原・ツネイシ文化財団編
アートディレクション	榊原健祐 (Iroha Design)
発行元	エシエル・アン



### Nine Visions: Japanese Architects from Japan to the World なぜ日本の建築家は世界から高く評価されているのか。

発行日	2026年5月末予定
判型等	A5変形 205ページ
販売額	3,801円(国内大型書店、Amazon等で販売)
著者	神原・ツネイシ文化財団編
アートディレクション	榊原健祐 (Iroha Design)
発行元	エシエル・アン

## クラウドファンディング

クラウドファンディングサイト「READYFOR」にて、クラウドファンディングを実施、サポーター向けのオリジナルの返礼品なども制作し、『ひろしま国際建築祭 2025』の周知と賛同を図ると共に資金調達を行った。またふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」を活用した資金調達も実施した。



返礼品希望の支援者全員に応援バッジを配布



ナイン・ヴィジョンズ建築家 8 組 9 人  
[画家・宮沢洋氏 作画] の  
ポストカードセット (非売品) を提供

実施期間 2025年7月4日(金)～9月5日(金)  
運営サイト READYFOR

[実施結果]  
調達金額 3,263,000円  
支援者数 83人

## ふるさと納税

本建築祭を通じた、地域の建築文化の発信とまちづくりへの関心を高めることを目指し、より多くの方に地域の魅力と建築祭を発信していくための財源確保の手段として、ふるさと納税制度を活用した。



個人向け (運営) ふるさとチョイス



企業向け (運営) 福山市

[実施結果] 個人向け 調達額 30,000円 [納税額 102,000円]  
企業向け 調達額 4,000,000円

支援者数 4名  
支援企業数 8社

## スポンサー協賛

地元企業を中心に、企業の社会貢献活動の一環として、地域社会および文化価値向上への取り組みに対する支援を呼びかけた。協賛内容に応じて、展示会場での企業名掲出や、設計・イベント計画に企業のアイデア採用や意向を反映するなど、支援企業のブランド価値向上にもつながる施策を実施した。

### 協賛展示・イベントへの企業名の掲出



### 支援企業の事業との関連・想いを採用したキオスク





## VI. 運営

福山市・尾道市内の7会場と、JR福山駅南口キオスク及びONOMICHI U2前オリーブ広場キオスクにスタッフを配置し、来場者への案内や誘導、作品看視等を行った。

福山市内と尾道市内に1名ずつ会場統括者を配置し、スタッフの取りまとめや巡回によるトラブル対応、鑑賞パスポートなどのチケット類・グッズ補充など運営全般を統括した。

ボランティアスタッフは、来場者との接点を持てるよう、展示会場での作品看視や案内、誘導を中心に担当した。

## 会場運営

来場者がより快適に鑑賞できるよう各会場の特性に応じて、会場案内や誘導、作品看視、販売、情報提供を行った。

	鑑賞時間	チケット販売	グッズ販売	インフォメーション
[福山] 神勝寺 禅と庭のミュージアム	9:00~16:00	○	○	○
[福山] ふくやま美術館 ギャラリー	9:30~17:00	—	—	—
[福山] JR 福山駅南口キオスク	9:00~16:30	—	—	○
[尾道] 尾道市立美術館	9:00~17:00	○	○	○
[尾道] LOG	11:00~17:00	○	○	○
[尾道] LLOVE HOUSE ONOMICHI	10:00~17:00	—	—	—
[尾道] まちなか文化交流館「Bank」	10:00~18:00	—	—	—
[尾道] ONOMICHI U2	10:00~17:00	○	○	○
[尾道] ONOMICHI U2 前キオスク	10:00~17:00	—	—	—



スタッフ証



スタッフユニフォーム

## ボランティアスタッフ

ボランティアスタッフの募集は、主に『ひろしま国際建築祭 2025』公式ホームページや SNS を通じて行ったほか、建築家が指導する大学等の学生にも呼びかけを行った。また、協賛企業からは社会貢献活動の一環として、従業員のボランティア参加があるなど、多様な参加者を得ることができた。

登録者人数	84 名
実働稼働者数	58 名
性別	男性 17 名 女性 41 名
居住地内訳	福山・尾道市 31 名 / 2 市以外県内 14 名 / 中国地方 2 名 関西 3 名 / 関東 8 名



### 募集概要（抜粋）

#### 活動内容

- 展示会場運営全般（案内、受付、作品看視、片付け等）
- イベントサポート（案内、受付、会場設営・撤収等）
- その他、運営に付随する補助業務

#### 応募資格

- 建築祭の趣旨を理解し、積極的に活動できる方
- 高校生以上であり、日本語でのコミュニケーションが可能な方
- 建築祭期間中に 3 日以上、原則 1 日 8 時間の活動が可能な方

### ボランティアへの支援措置及び参加促進策の実施

ボランティアスタッフには、活動に伴う交通費等の負担に配慮し、1 日（1 回）の活動に対し 1,000 円分の金券を支給した。また、ボランティア活動の初回時には、建築祭を理解しながらより楽しんでもらえるよう鑑賞パスポートを配布すると共に、活動中に身に付けられるオリジナル・サコッシュを無料で提供した。



金券は、建築祭滞在中に活用してもらえるよう、展示会場である ONOMICHI U2 および LOG で利用できるものとした。

## ボランティアスタッフ説明会

ボランティアスタッフ説明会では、開催趣旨や運営方針、安全管理の共有および各業務手順等の統一を目的として、対面で2回、オンラインで1回実施した。オンライン説明会の内容については後日 YouTube に掲載し、指定日に参加できなかった方や説明日以降に新規申込みのあった方も視聴できるようにし、情報周知を図った。

第1回説明会	
日時	2025年9月21日(日) 18:00~19:00
開催形式	対面
場所	県民文化センター文化交流室1(福山市)
第2回説明会	
日時	2025年9月22日(月) 19:30~20:30
開催形式	オンライン
場所	オンライン
第3回説明会	
日時	2025年9月23日(火・祝)15:00~16:00
開催形式	対面
場所	iti SETOUCHI(福山市)

## ボランティアスタッフ研修

活動前研修として、開幕直前の10月3日に総合ディレクターによる解説のもと、福山市内および尾道市内の各会場をバスで巡回し、展示の意図や背景について学ぶ機会を設けた。

ボランティアスタッフ研修ツアー	
開催日	2025年10月3日(金)
行程表	8:30 JR福山駅 集合/出発 9:30~11:00 神勝寺 禅と庭のミュージアム 見学 11:45~13:00 ONOMICHI U2 見学~(各自昼食) 13:30~14:30 尾道市立美術館 見学 LOG~LLOVE HOUSE ONOMICHI 見学 JR尾道駅 解散
ガイド	総合ディレクター白井良邦

## 連絡及び伝達方法

管理責任者をはじめとする『ひろしま国際建築祭2025』スタッフおよびボランティアスタッフ間の連絡手段としてLINEを活用し、日々の報告や問題発生時の対応方法を共有した。また、各会場にはスタッフ専用の引継ぎノートを設置し、伝達事項を記録することで、スタッフ間での確実な申し送りを行った。

## VII. 広報・コミュニケーション

2025年が初開催となった〈ひろしま国際建築祭〉を広く国内外に発信するため、広報・コミュニケーション活動を行った。具体的には開催1年前となる2024年11月に東京で記者発表会を開催したことを皮切りに、13回のプレスリリース配信、2回の現地ツアーなどを通じ、メディアに働きかけた。

海外に向けては、『designboom』『Dezeen』という2つの建築・デザイン系ウェブ媒体とメディアパートナー契約を締結すると共に、日本在住の海外媒体のライターをメディアツアーに招聘し記事化してもらうことで、海外の建築・デザインに関心のある層に向けて情報発信を行った。

一般向けには、公式ホームページを日本語・英語で立ち上げ、プレスリリース以外にも情報告知をすると共に、公式SNS(Instagram,Facebook,X)により、日本語・英語の2か国語で情報発信を行った。

## 媒体露出

新聞・テレビ・雑誌・ウェブサイト等のメディアで『ひろしま国際建築祭 2025』が多数取り上げられた。

媒体	ウェブサイト等			雑誌			新聞	テレビ	ラジオ	総計
	国内	海外	合計	国内	海外	合計	国内	国内	国内	
媒体数	326	14	340	27	1	28	14	7	2	392
掲載件数	922 件	21 件	943 件	33 件	1 件	34 件	36 件	11 件	3 件	1,028 件

※対象期間：2024年11月8日～2026年2月15日まで

## 新聞・雑誌等の主な報道記事（抜粋）

新聞・雑誌・オンラインマガジン等で取り上げられた主な見出しと記事を紹介する。

### ◎ 建築祭、対話・思考促す場へ 全国で盛ん、「ひろしま」初の試み

（日本経済新聞 2026年11月7日）

日本で初めて現代建築に焦点を絞った「ひろしま国際建築祭」が30日まで、広島県で開催中だ。地域活性や文化財活用の潮流を背景に建築祭は全国で勃興しており、建築を見るだけでなく「考える」「体験する」文化として広がりがつつある。

### ◎（視線）ひろしま国際建築祭、未来へ種まき 福山と尾道で初開催

（朝日新聞 2025年11月12日）

小さく産んで大きく育てる―。3年に1度開催予定で、この秋初めて、広島県福山市と尾道市の7会場を中心に開かれている「ひろしま国際建築祭」を見ると、そんな印象を受ける。3年後、あるいは6年後、どんな国際建築祭に育っているのだろうか。

### ◎ 建築家が示す「新しい未来」福山と尾道でひろしま国際建築祭

（中国新聞 2025年10月27日）

巨匠から若手まで23組の建築家たちを紹介する初の「ひろしま国際建築祭」が福山市、尾道市の7会場で開かれている。各地を巡ってもらう仕掛けで、建築による「新しい未来」を提示している。

### ◎ 「つなぐ」テーマに建築の未来体験 「ひろしま国際建築祭」初開催

（読売新聞 2025年11月5日）

広島から優れた建築文化を発信する祭典「ひろしま国際建築祭」が今年、新たに始まった。初回は、広島県福山、尾道両市を中心とした7会場で建築家ら23組が参加。伝統と革新が交差する日本建築界の勢いと、建築の未来を体感する機会となっている。

### ◎「ひろしま国際建築祭 2025」初開催で20万人が熱狂。尾道・福山で巡る安藤忠雄、坂 茂ら建築界レジェンドの展示の数々

（suumo ジャーナル 2026年1月13日配信）

第1回のひろしま国際建築祭では、尾道市と福山市を舞台に、街中や山間部で建築文化の多様な面に触れる展示が展開されました。この機会で見かけることのできない展示やキオスクの制作によって、日本各地、あるいは海外からも建築好きが広島を訪れ、地域の魅力を発見する機会になったのではないのでしょうか。建築家が取り組むテーマは多岐にわたります。特に近年ではサステナビリティやコミュニティ、災害復興など一般の人にとっても身近なテーマに長く取り組む建築家も多く、今回の建築祭でもそうしたプロジェクトが紹介されました。建築家がそうした社会問題にどのように向き合い、建築を通して提案を行っているのかを知ること、仕事や家庭生活を送るうえで新しい気づきを得られることでしょう。

### ◎ 「ひろしま国際建築祭 2025」開幕レポート。建築文化の集積地で感じる新しい未来の姿

（美術手帖 Web 2025年10月6日）

広島県福山市、尾道市を中心に、世界的に活躍する著名建築家や未来を担う若手建築家総勢23組が参加する、建築文化の祭典「ひろしま国際建築祭 2025」が開幕した。初開催となる今年の会期は10月4日～11月30日。総合ディレクターは白井良邦、チーフ・キュレーターは前田尚武。本建築祭の総合ディレクター・白井は、次のように語る。「構想から約10年をかけて実現した本建築祭。大阪・関西万博2025、瀬戸内国際芸術祭2025、岡山芸術交流2025の開催、そして戦後80年にあたる節目の年でもある今年に、どうしても開催したいという思いがあった。何を指針に生きていけば良いかが不明瞭ないまだからこそ、建築という切り口から、未来をともに考えていく機会をつくりたい。また日本だけでなく世界に開かれた建築祭として、今後も長く続いていくようなものとなることを目指したい」。日本で初めてとなる国際的な建築祭の開催。広島を中心とした瀬戸内というエリアを舞台に、今後どのような展開を見せていくのか要注目だ。

### ◎ 21組の建築家が集結する『ひろしま国際建築祭 2025』全容決定！

（Casa BRUTUS 2025年7月11日）

第1回『ひろしま国際建築祭 2025』の10月開幕まで3か月を切り、展示の全容がほぼ発表となった。全国でも類を見ない本格的な建築祭の第1回は日本人プリツカー賞受賞者や丹下健三自邸再現から若手建築家まで、総勢21組の建築家をフィーチャーする。

『ひろしま国際建築祭 2025』の総合ディレクターを務めるのは元『Casa BRUTUS』副編集長の白井良邦。チーフキュレーターは〈森美術館〉や〈京都市京セラ美術館〉で美術展・建築展の展示デザイン・企画を手掛けてきた前田尚武。新旧の日本の名建築をさまざまな角度から再発見する試みは、国内のみならず海外からも注目が集まっている。この秋は充実した建築旅に繰り出したい。

※記事が掲載された雑誌の発売時点では、出展建築家・作家は21組とプレス発表されていた。

### ◎ひろしま国際建築祭 2025

（家庭画報 2025年7月号）

今年からスタートする、建築をテーマとした3年に一度の芸術祭。記念すべき第1回は、建築界のノーベル賞と呼ばれるプリツカー賞を受賞した日本人建築家9名と丹下健三自邸復刻を中心に、トークイベントや展示が行われます。

### ◎日常と非日常を開く建築

（新建築 住宅特集 2025年12月号）

建築祭は、美術館での集まり整った展示に加え、街中でも展開もあることで、そこでしか起きない偶然に出会えることも魅力のひとつだ。本建築祭ではそれぞれが建築展示としての独自性と魅力があったことから、3年後の展開に期待が高まる。非日常としてただ建築を開放するだけではなく、日常にささやかに入り込んだ展示という非日常が作られている点で建築の活用可能性が示され続けると良いだろう。また、今回神勝寺で展示されていた、福山で再現が予定されているという丹下健三の自邸「成城の家」が数年後に会場になることも期待できる。過去と未来を繋げ、可能性を広げていく意志が現れている建築祭だった。

### ◎瀬戸内に根差した建築でつながる58日間の祭典

（商店建築 2026年1月号）

2025年10月から11月に掛けて、広島県福山市と尾道市を舞台に、「ひろしま国際建築祭」が初開催された。「つなぐ-「建築」で感じる、私たちの“新しい未来”」をテーマとし、子どもから大人まで幅広い人々が建築に触れ、未来の社会を考えるきっかけをつくることを目指したイベントだ。国内外から延べ20万人が訪れ、7会場で23組の建築家・作家による多彩な展示を楽しんだ。今後は3年に一度の開催が予定されている。

### 速報ひろしま国際建築祭！ 全員が主役の異色展「ナイン・ヴィジョンズ」は必見、

#### プレミアトークには伊東豊雄・石上純也らが登壇

（BUNGA NET 2025年10月6日配信）

普通、こういうものは「主役級1人を取り上げる」か「流れを描くために複数人を取り上げる」のどちらかで考えるものである。こんな「全員が主役」「序列はNG」みたいな展示会をやろうと思う人は少ないだろう。（中略） それぞれが膨大なコンテンツをもつ巨匠たち。それぞれに任せておけば、狭い部屋にぎゅうぎゅうに詰め込んだ印象になってしまうだろう。だが、どの展示もゆったりと見ることができた。そして、各人の見せ方やテーマが被っていない。だから、各人の展示が記憶に残る。

## テレビ・ラジオ出演

テレビ・ラジオ等の放送媒体で取り上げられた番組等を紹介する。

2025年1月15日(水)	artscape「ミュージアム外のインターネットラジオ」 出演：キュレーター / 筒井彩
2025年8月21日(木)	RCC ラジオ「まるっと日常ワイド えんまん。」 出演：キュレーター / 筒井彩、香村ひとみ
2025年9月23日(火)	NHK 広島「お好みホリデー」 出演：出展建築家 / 川島範久
2025年10月1日(木)	エフエムふくやま「イブニングステーション」 出演：総合ディレクター / 白井良邦
2025年10月1日(水)	ちゅび com「記者の視点」 出演：中国新聞備後本社代表 / 武河隆司
2025年10月11日(土)	RCC テレビ「ニュース」 出演：総合ディレクター / 白井良邦
2025年10月13日(月)	日本テレビ「NEWS NNN」 出演：出展建築家 / 坂 茂
2025年11月6日(木)	RCC ラジオ「まるっと日常ワイド えんまん。」 出演：キュレーター / 香村ひとみ
2025年11月8日(土)	RCC ラジオ「柳沼淳子のちょっと小耳に」 出演：柳沼淳子
2025年11月9日(日)	RCC テレビ「イマナマ」 出演：総合ディレクター / 白井良邦
2025年11月11日(火)	ひろしまホームテレビ イメージ画像
2025年11月13日(木)	2025年11月13日(木) エフエムふくやま「GO！GO！Bびんご～」 出演：総合ディレクター / 白井良邦
2025年11月14日(金)	NHK 広島「ニュース」 出演：総合ディレクター / 白井良邦
2025年11月24日(金)	RCC テレビ「ニュース」 ※藤井厚二特集
2025年11月27日(月)	NHK 島根「ニュース」 出演：総合ディレクター / 白井良邦
2025年11月28日(火)	NHK 岡山「ニュース」 出演：総合ディレクター / 白井良邦

## プレスリリース

2024年11月の記者発表会から、2025年12月の閉幕まで計13本のプレスリリース（日本語・英語）を行った。プレスリリースはPR TIMESを通じて配信したほか、各媒体や記者、インフルエンサー等にメールで配信した。なお、配信されたプレスリリースはすべて公式ホームページ「NEWS」ページから閲覧することができる。

2024年11月8日(金)	ひろしま国際建築祭 2025 開催
2025年6月4日(水)	ひろしま国際建築祭 2025 全 21 組の建築家・作家の展示概要決定
2025年7月1日(火)	鑑賞パスポート販売開始
2025年7月4日(金)	クラウドファンディング・ふるさと納税募集開始
2025年8月19日(火)	堀部安嗣、中山英之による「移動型キオスクー小さな建築」立ち上げ
2025年9月3日(水)	著名建築家によるトークイベント&ワークショップ開催
2025年9月4日(木)	ボランティアスタッフ募集
2025年9月18日(木)	石上純也による「移動型キオスクー小さな建築」JR 福山駅に誕生
2025年9月19日(金)	堀部安嗣・藤本壮介・石上純也・長坂常・名和晃平と共に過ごす 「夢のクラファン」特別支援プログラム申し込み開始
2025年10月4日(土)	ひろしま国際建築祭 2025 本日開催
2025年10月22日(水)	子どもの五感を（Catch）する秋の収穫カーニバル『Catch the Fall』開催
2025年11月4日(火)	「ナイン・ヴィジョンズ   日本から世界へ跳躍する9人の建築家」展で入場者1万人超え
2025年12月1日(月)	ひろしま国際建築祭 2025 来場者延べ20万人超え。次回開催は2028年秋

## 記者発表会

日 時：	2024年11月8日(金) 10:30～11:45
会 場：	国際文化会館 岩崎小彌太記念ホール（東京都港区六本木5-11-16）
内 容：	総合ディレクターの白井良邦とチーフキュレーターの前田尚武が『ひろしま国際建築祭2025』の開催目的、展示概要などを説明したほか、ゲストスピーカーに建築家、伊東豊雄氏を迎え、瀬戸内エリアでの建築祭開催の意義などを建築家としての足跡と照らし合わせて講演。司会は草野満代氏。記者発表会後には隣接会場にて関係者と意見交換を行う懇親会も実施。

参加メディア数： 54名（会場：45名 オンライン：9名）  
関係者 46名（会場：33名、オンライン：13名）



## メディアツアー

### メディアツアー 1

日時： 2025年10月4日(土)～10月5日(日)  
 会場： ふくやま美術館ギャラリー、神勝寺 禅と庭のミュージアム、尾道市立美術館、LOG、LLOVE HOUSE ONOMICHI、まちなか文化交流館「Bank」ONOMICHI U2、iti SETOUCHI  
 内容： 影響力のあるメディアの編集長をはじめ、エディター・ライターをオープニングレセプション、建築祭の内覧会に招聘し、各展示を案内すると共に、出展建築家による講演会に招待した。  
 参加者数： 12名(媒体数10)



### メディアツアー 2

日時： 2025年10月9日(木)  
 会場： JR福山駅南口、ふくやま美術館ギャラリー、神勝寺 禅と庭のミュージアム、ONOMICHI U2、尾道市立美術館、LOG、LLOVE HOUSE ONOMICHI、まちなか文化交流館「Bank」  
 内容： 全国紙、地元紙をはじめとした新聞メディアをはじめ、雑誌のフリーランスライター等を招聘し、各展示会場を巡り、説明を行った。  
 参加者数： 22名(媒体数22)



## 広報用制作物

### メインビジュアル / 三連ポスター (B2 サイズ)



デザイン：UMA / design farm

### フライヤー (A4 サイズ)



デザイン：UMA / design farm

### 名刺型フライヤー



デザイン：UMA / design farm

### 尾道市商店街ターポリン



デザイン：UMA / design farm

展示『ナイン・ヴィジョンズ』  
ポスター (B2 サイズ)



デザイン：榎原健祐 (Iroha Design)

展示『ナイン・ヴィジョンズ』  
フライヤー (A4 サイズ)



デザイン：榎原健祐 (Iroha Design)



ワークショップ・フライヤー  
(A4 サイズ)



デザイン：小熊千佳子

トークイベント・フライヤー  
(A4 サイズ)



デザイン：小熊千佳子



連携活動 (行政)

2025年9月4日(木)	福山市記者クラブ説明会 会場：福山市役所
2025年9月16日(火)	尾道市市長会見 会場：尾道市役所
2025年10月18日(土)	ひろしまたてものがたり連携記念講演会 Vol.1 「瀬戸内海に築かれた文化：戦後建築の軌跡とその現在」 会場：広島県立歴史博物館講堂
2025年10月26日(日)	ひろしまたてものがたり連携記念講演会 Vol.2 「瀬戸内海に築かれた文化：戦後建築の軌跡とその現在」 会場：ふくやま美術館ホール
2025年11月18日(火)	福山市市長 ふくやま美術館展示案内 会場：ふくやま美術館 ギャラリー

尾道市・広報誌へのPR掲載



広報おのみち 2025年9月号

広島県「たてものがたり」パンフレット広告掲載



ひろしま たてものがたりフェスタ 2025 イベントガイドブック

連携活動 (民間)

2025年5月24日(土)	「日本建築祭まつりー私たちの「建築祭」を語り合う」登壇 登壇者：チーフキュレーター／前田尚武 会場：日比谷 OKUROJI 主催：東京建築祭実行委員会
2025年8月11日(月)	「会員限定ライブ配信」にて『ひろしま国際建築祭 2025』登壇 登壇者：総合ディレクター／白井良邦 主催：建築祭オフィシャルクラブ
2025年9月15日(月)	「Nishi Nippon ARTrail 2025 トークショー」登壇 登壇者：総合ディレクター／白井良邦 会場：EXPO 酒場 キタ本店 主催：JR 西日本 SC 開発
2025年9月24日(水)	「建築鑑賞のススメ / 文化観光資源としての建築」登壇 登壇者：チーフキュレーター／前田尚武 会場：大阪北部コミュニティカレッジ
2025年10月4日(土)～11月26日(水)	【広島 蔦屋書店】ひろしま国際建築祭 2025 フェア出展 会場：HIROSHIMA T-SITE / 蔦屋書店 2号館 1F マガジンストリート
2025年10月13日(月)	「会員限定ライブ配信」にて『ひろしま国際建築祭 2025』出演 出演者：総合ディレクター／白井良邦 チーフキュレーター／前田尚武 主催：建築祭オフィシャルクラブ

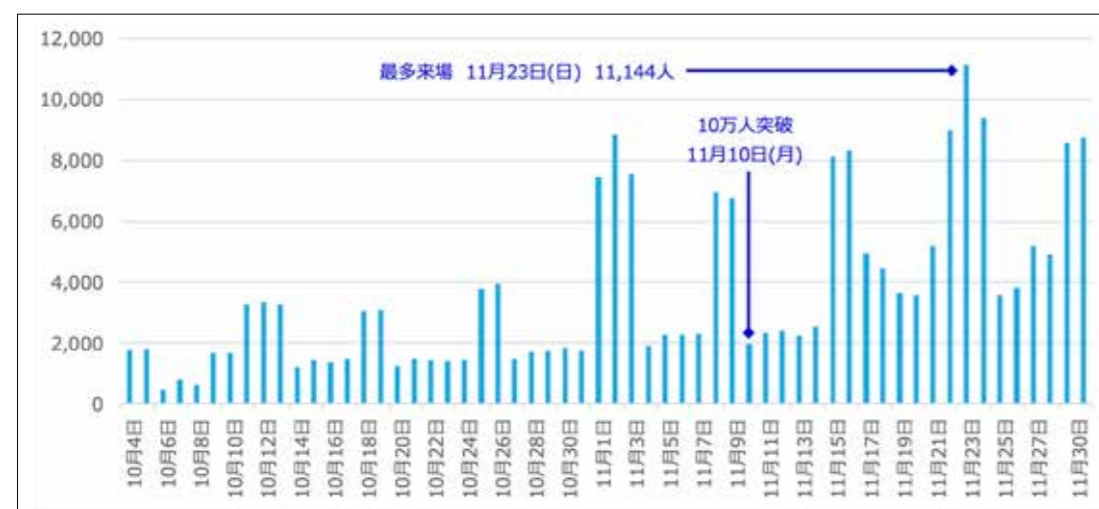


## 来場者数

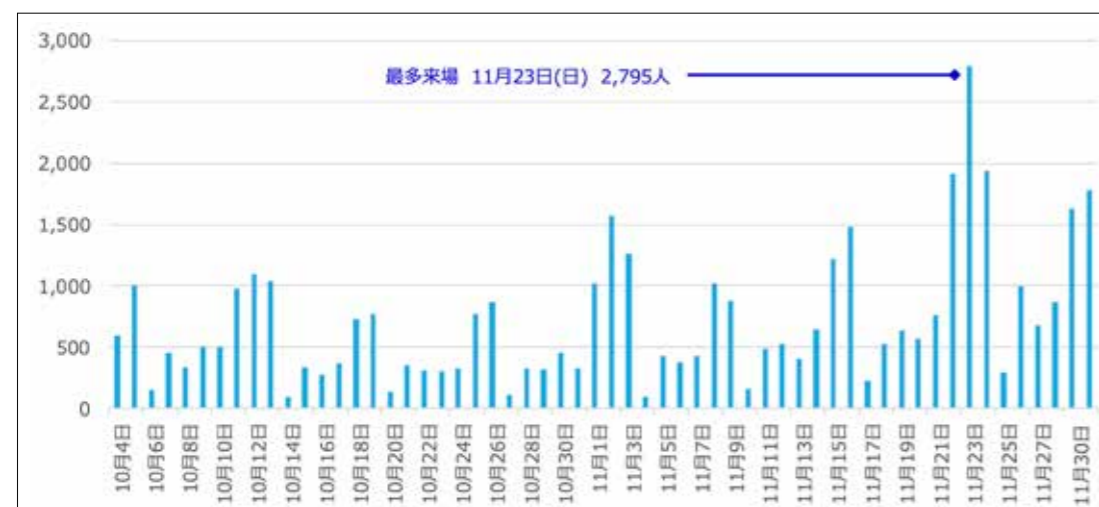
延べ来場者数 21万4,089人

有料 施設・イベント来場者数：計41,392人		無料 施設・イベント来場者数：172,697人	
会場	人数	会場	人数
神勝寺禅と庭のミュージアム	12,348人	ONOMICHI U2	14,971人
ふくやま美術館 ギャラリー	3,095人	LOG (無料エリア)	6,033人
尾道市立美術館	20,991人	キオスク 福山駅前	110,529人
LOG	1,823人	キオスク ONOMICHI U2 前	40,132人
LLOVE HOUSE ONOMICHI	1,433人	イベント (無料)	1,032人
まちなか文化交流館「Bank」	1,471人		
イベント (有料)	231人		

延べ来場者数 推移



有料 施設・イベント来場者数 推移



## 来場者アンケート

来場者の属性、評価、意見などを把握するため、神勝寺 禅と庭のミュージアム、尾道市立美術館の2か所で来場者へのアンケート調査を実施した。(回答者数 671人)

調査体制	主催：一般財団法人神原・ツネイシ文化財団
	アンケート調査実施：ひろぎんエリアデザイン株式会社
実施日時	2025年10月5日(日)9:00～16:00 2025年10月25日(土)・26日(日)9:00～16:00 2025年11月1日(土)・2日(日)9:00～16:00
実施場所	2025年10月5日(日)尾道市立美術館 2025年10月25日(土)・26日(日)神勝寺・尾道市立美術館 2025年11月1日(土)・2日(日)神勝寺・尾道市立美術館
調査対象	『ひろしま国際建築祭 2025』の来場者
調査方法	調査員が回答依頼を口頭で行い、承諾を得た場合はQRコードを読み取ってもらい、WEBアンケートを実施。
回収状況	有効回答数 671

## 特性

アンケート調査の結果から来場者には以下のような特性が見られた。

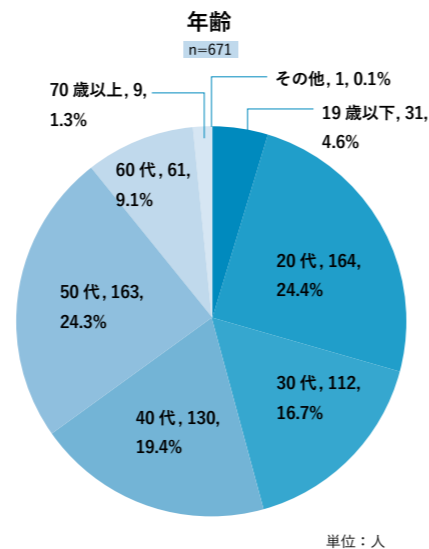
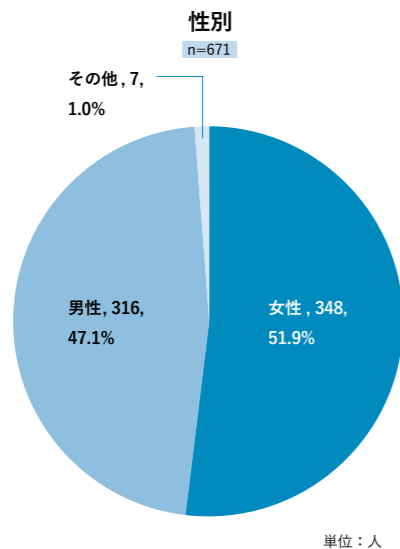
- 年齢層は20代が最も多く(24.4%)、次いで50代(24.3%)と続くが、30代(16.7%)、40代(19.4%)も多く、幅広い層に受け入れられている。
- 広島県以外からの来場者が半数以上(57.5%)となっている。都道府県別でみると東京が一番多く(11.3%)、次いで大阪府(6.3%)、愛知県(5.4%)、岡山県(5.1%)となっている。
- 首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)からの来場者は全体の16.9%、関西圏(大阪・京都・兵庫)からの来場者は12.5%であった。首都圏・関西圏からの来場者の割合は29.4%と、全体の3分の1弱を占めている。
- 広島県外からの来場者の交通手段を見ると、自家用車が45.2%と一番多かった。次いで新幹線(32.8%)、飛行機(9.2%)となっている。
- 宿泊を伴う来場は、回答者全体の48.4%となっている。
- 他地域で開催されていた芸術祭への訪問有無について尋ねたところ、「瀬戸内国際芸術祭」への訪問が最も多く48.3%であった。
- 総合評価は「非常に満足」と回答したのは52.9%で半数を超えている。「満足」と回答した42.5%と合わせると、95.4%の方から高評価であった。

### 回答者の属性

#### ● 性別、年齢

回答者の性別をみると、女性が51.9%、男性が47.1%であり、女性の方が4.8%多い結果となった。

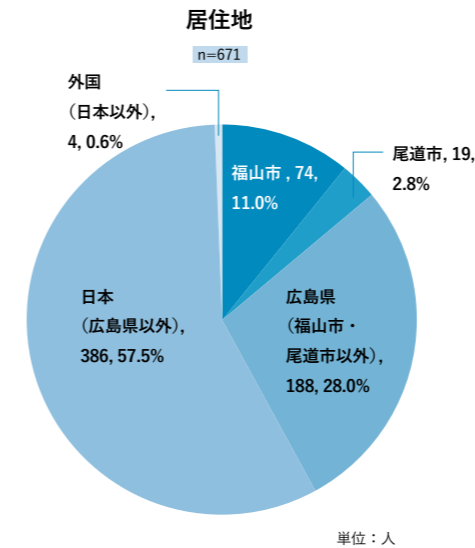
年齢については、20代が24.4%で最も多く、次いで50代24.3%となっている。30代は16.7%、40代は19.4%が訪れており、幅広い層に受け入れられていることが伺える。



#### ● 居住地

居住地を尋ねたところ、福山市が11.0%、尾道市が2.8%、広島県(福山市・尾道市以外)は28.0%、

日本(広島県以外)が57.5%、外国(日本以外)が0.6%となっている。広島県以外の居住地(都道府県)は以下のとおり。

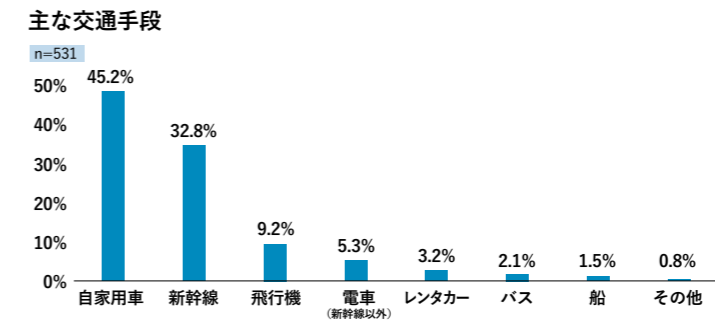


居住地	回答数	割合	居住地	回答数	割合
福山市	74	11.0%	三重県	0	0.0%
尾道市	19	2.8%	滋賀県	3	0.4%
広島県	188	28.0%	京都府	19	2.8%
北海道	1	0.1%	大阪府	42	6.3%
青森県	1	0.1%	兵庫県	23	3.4%
岩手県	0	0.0%	奈良県	7	1.0%
宮城県	3	0.4%	和歌山県	0	0.0%
山形県	0	0.0%	鳥取県	6	0.9%
秋田県	0	0.0%	島根県	8	1.2%
福島県	0	0.0%	岡山県	34	5.1%
茨城県	2	0.3%	山口県	6	0.9%
栃木県	0	0.0%	徳島県	4	0.6%
群馬県	0	0.0%	香川県	13	1.9%
埼玉県	9	1.3%	愛媛県	16	2.4%
千葉県	9	1.3%	高知県	5	0.7%
東京都	76	11.3%	福岡県	19	2.8%
神奈川県	20	3.0%	佐賀県	1	0.1%
新潟県	0	0.0%	長崎県	2	0.3%
富山県	0	0.0%	熊本県	1	0.1%
石川県	2	0.3%	大分県	3	0.4%
福井県	2	0.3%	宮崎県	0	0.0%
山梨県	2	0.3%	鹿児島県	1	0.1%
長野県	3	0.4%	沖縄県	0	0.0%
岐阜県	0	0.0%	外国	4	0.6%
静岡県	1	0.1%	無回答	6	0.9%
愛知県	36	5.4%	合計	671	100.0%

### 来場の際の行動状況

#### ● 利用した主な交通手段

広島県外からの来場者に、来場の際に利用した主な交通手段を尋ねた。「自家用車」が45.2%で最も多く、次いで「新幹線」が32.8%、「飛行機」が9.2%となっている。

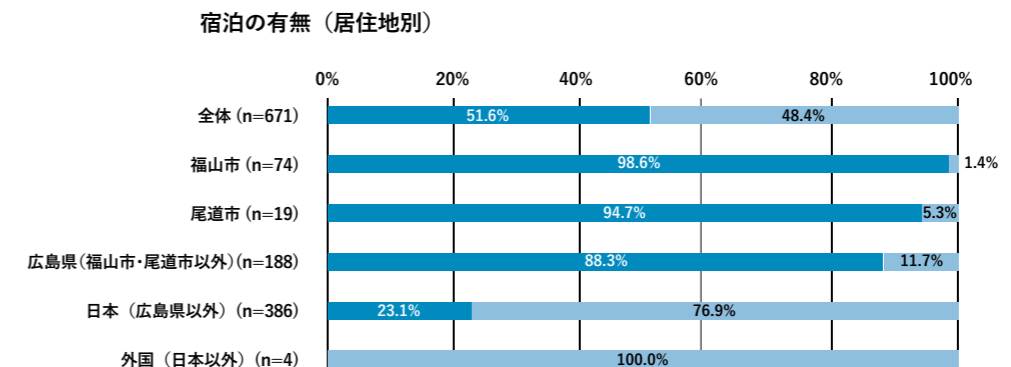


#### ● 宿泊の有無

来場に伴う宿泊の有無について尋ねた。全体をみると51.6%が「日帰り」、48.4%が「宿泊」であった。

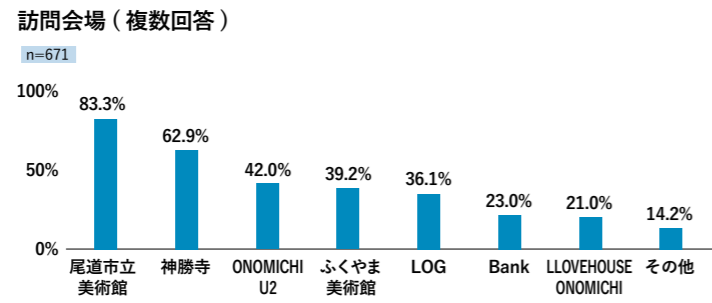
広島県(福山市・尾道市以外)に居住している方は、88%以上が日帰りであった。

日本(広島県以外)からの来場者をみると、「日帰り」が23.1%、「宿泊」が76.9%となっている。



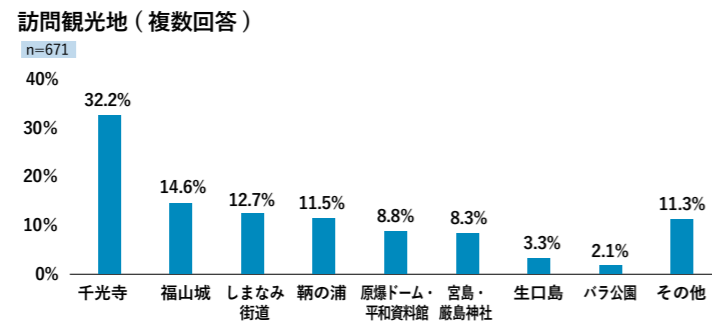
● 訪問会場

今回の来場におけるひろしま国際建築祭における訪問会場を尋ねたところ、「尾道市立美術館」が最も多く83.3%であり、次いで「神勝寺」が62.9%であった。そのほかの施設では、「ONOMICHI U2」が42.0%、「ふくやま美術館」が39.2%、「LOG」が36.1%であった。



● 訪問観光地

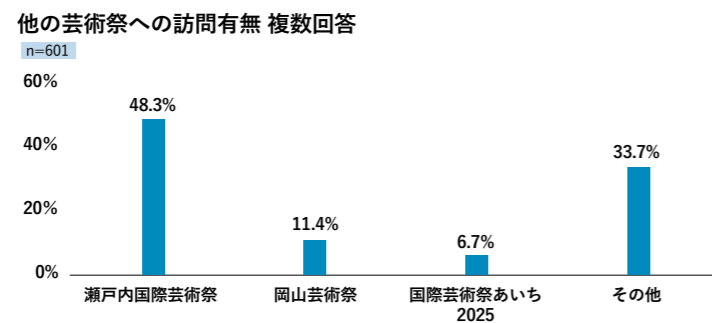
今回の来場における訪問観光地を尋ねたところ、「千光寺」が最も多く32.2%であり、次いで「福山城」が14.6%、「しまなみ海道」が12.7%、「鞆の浦」が11.5%であった。そのほかの観光地では、「原爆ドーム・平和資料館」「宮島・厳島神社」にも約8%程度の人を訪れている。



※全体の回答数から回答割合を算出しているため、無回答も含まれる。

● 他の芸術祭への訪問有無

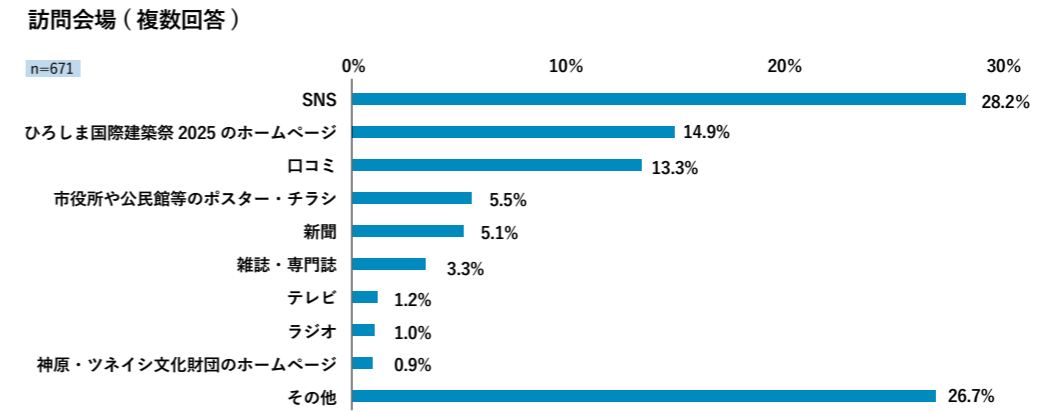
今回の来場の前後において、他地域で開催されていた芸術祭への訪問有無について尋ねたところ、「瀬戸内国際芸術祭」への訪問が最も多く48.3%であった。



ひろしま国際建築祭 2025 についての評価等

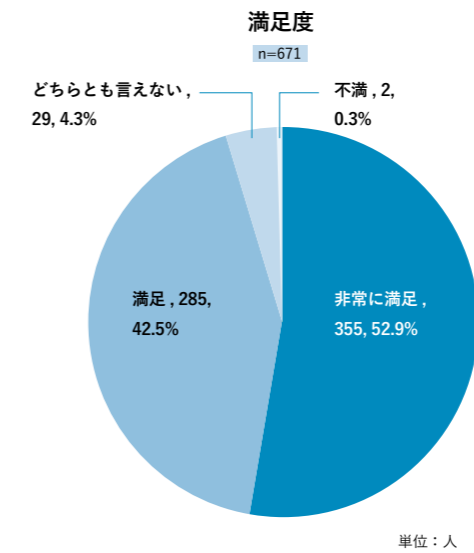
● どのようにして知ったのか（情報源）

ひろしま国際建築祭 2025 に来場するきっかけとなった情報源について尋ねた。「SNS」が28.2%と最も多く、次いで「ひろしま国際建築祭 2025 のホームページ」が14.9%、「口コミ」が13.3%となっている。



● 満足度

ひろしま国際建築祭 2025 の満足度について尋ねた。「非常に満足」と回答したのは52.9%で半数を超えている。「満足」と回答した42.5%と合わせると、95.4%の方から高評価であった。





## IX. 経済波及効果

『ひろしま国際建築祭 2025』はミッションのひとつとして「地域の活性化」を挙げている。その一環として、初開催となった本建築祭の、開催地域に及ぼす経済波及効果についての測定を行った。

本建築祭の経済波及効果について調査・分析・推計することにより今回の事業を評価すると共に、今後地域が一体となった事業展開の検討等の基礎資料となることを目的としている。

## 推計結果

『ひろしま国際建築祭 2025』により創出された需要の総額は、全国で12億6,300万円、「広島県内」で9億8,800万円と推計された。

需要額12億6,300万円のうち「広島県内」で発生した需要は、神原・ツネイシ文化財団の資料やアンケート調査の結果などから、9億8,800万円と推計された。このうち1億4,900万円が県外に流出し、残る8億4,000万円が「直接効果」として、広島県内の生産活動に投下された。

「直接効果」を受注した県内の事業者が、売上原価の一部を別の県内事業者が発注し、それを受注した事業者がさらに別の県内事業者が発注することにより、取引が県内に波及していく。このように繰り返される受注の総額（直接効果を除く）である「間接1次効果」は3億2,300万円と推計された。

直接効果と間接1次効果の業務の従業者が賃金を得て広島県内で消費することによる「間接2次効果」は1億5,400万円と推計された。

この結果、直接効果、間接1次効果、間接2次効果を合計した「総合効果」は13億1,700万円となった。

### 経済波及効果

#### 需要総額

全国	12億6,300万円
広島県内	9億8,800万円

#### 経済波及効果の推計

広島県内（直接効果）	8億4,000万円
広島県内（間接1次効果）	3億2,300万円
広島県内（間接2次効果）	1億5,400万円
広島県内（総合効果）	合計13億1,700万円

（ひろぎんエアデザイン推計）

※ 直接効果・・・『ひろしま国際建築祭 2025』の事業費及び来場者による県内消費によって、県内の産業部門に直接に生産を誘発する効果。

※ 間接1次効果・・・原材料を他産業から購入することによって起こる生産誘発効果。

※ 間接2次効果・・・直接効果と間接1次効果によって誘発された生産から生み出された雇用者所得が新たな消費に向けられることにより、再び生産を誘発する効果。

※ 総合効果・・・直接効果、間接1次効果、間接2次効果を合計した経済波及効果。

## X. 後援・助成・協賛等の支援

『ひろしま国際建築祭 2025』開催にあたっては、多くの個人・企業・団体の資金的なサポートや協力体制のもと開催された。その多大なる支援に対し、謝意を表すとともに報告する。

## 後援

『ひろしま国際建築祭 2025』は、文化庁をはじめ、開催地の自治体、観光関連団体、経済団体、メディアや、建築関連団体の協力により、開催された。

- 文化庁
- 広島県
- 福山市
- 尾道市
- 一般社団法人せとうち観光推進機構
- 一般社団法人広島県観光連盟（HIT）
- 広島商工会議所
- 福山商工会議所
- 尾道商工会議所
- 一般社団法人日本建築学会
- 一般社団法人日本建築協会
- 公益社団法人日本建築家協会
- 公益社団法人日本建築士会連合会
- 一般社団法人日本建築士事務所協会連合会
- 一般社団法人日本建築設計学会
- 中国新聞社

## 助成

『ひろしま国際建築祭 2025』の開催にあたっては、以下の公益財団法人より、助成を受けた。

公益財団法人大林財団



## 協賛

『ひろしま国際建築祭 2025』は、開催地を本拠地とする企業を中心に、多くの企業からの資金的な支援を受け開催された。

- 常石グループ
- 常石造船
- ツネイシカムテックス
- 浅沼組
- モルテン
- ウッドワン
- ひろぎんホールディングス
- ちゅうぎんフィナンシャルグループ
- 三井住友銀行
- 中国新聞社
- エフピコ
- マリモ
- 両備ホールディングス
- 日東製網
- イシカワホールディングス
- 南方ホールディングス
- 尾道造船
- モトヤユニテッド
- 安田工業
- 加計学園
- アトム
- ベッセルグループ
- 大和建設
- 光和物産
- ヒロマツホールディングス
- イズミ
- グローブス
- テラル
- 安保管店
- 山丸汽船
- PARIGOT
- 堀田組
- ホーコス
- 三井不動産



## 後援・助成団体名、協賛企業名の掲出

福山・尾道市内8つの展示会場に設置されたパネルにて、後援団体名、助成団体名、協賛企業名を掲出した。

神勝寺 禅と庭のミュージアム（総門前）



神勝寺 禅と庭のミュージアム（無明院下・特設会場）



尾道市立美術館



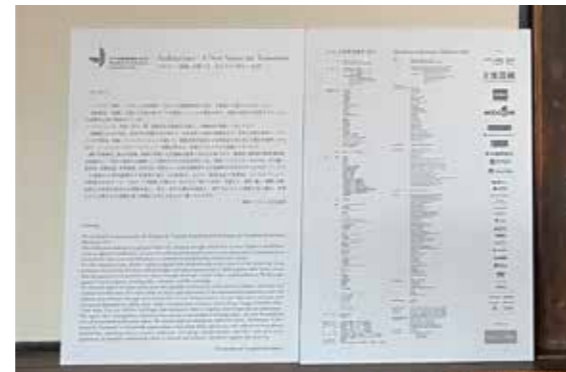
ふくやま美術館 ギャラリー



LOG



LLOVE HOUSE ONOMICHI



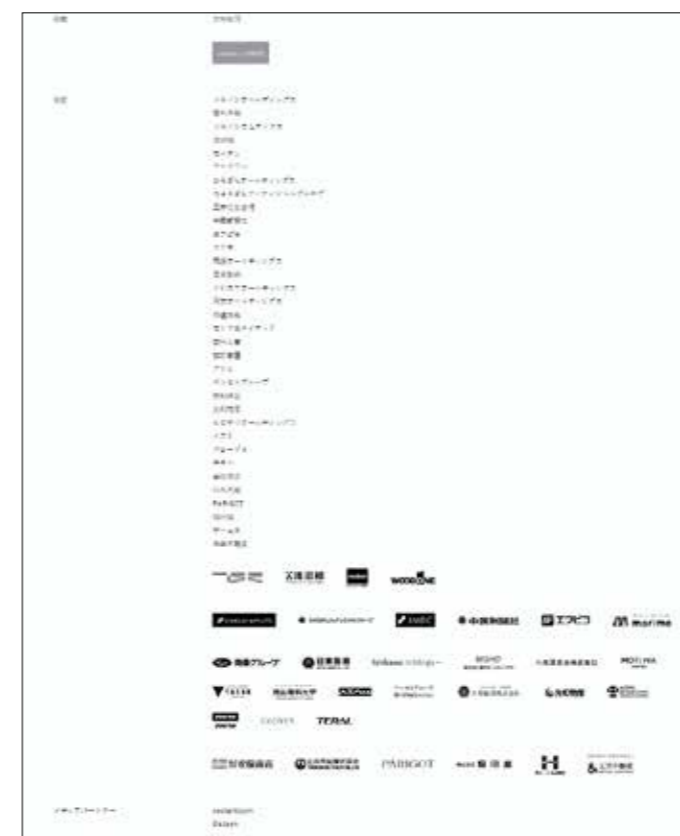
まちなか文化交流館「Bank」



ONOMICHI U2



『ひろしま国際建築祭 2025』公式ホームページにて、後援団体名、助成団体名+ロゴマーク、協賛企業名+ロゴマークを掲載した。



### ハンドアウト

（入場者に無料配布した地図付き展示ガイド）  
に後援団体名、助成団体名+ロゴマーク、  
協賛企業名+ロゴマークを掲載した。

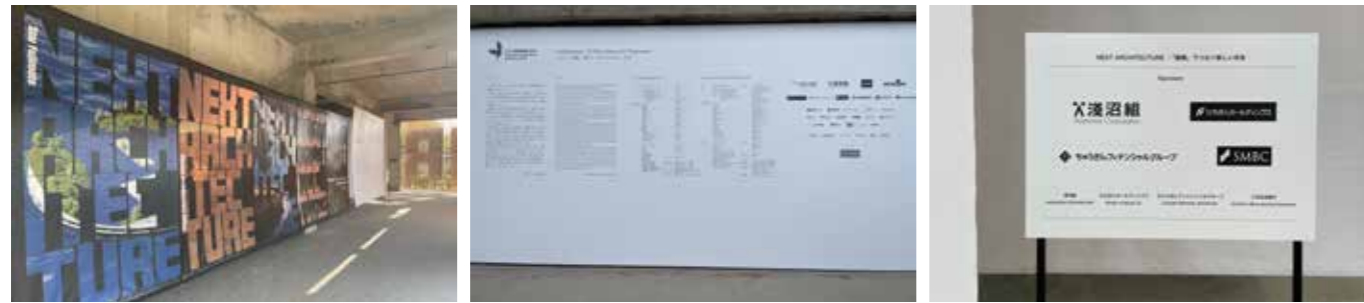


特定の展示に対する協賛については、展示会場入り口にサインを設置し、企業名+ロゴマークを掲出した。

## NEXT ARCHITECTURE | 「建築」でつなく新しい未来

神勝寺 禅と庭のミュージアム（無明院下・特設会場）

協賛：浅沼組、ひろぎんホールディングス、ちゅうぎんフィナンシャルグループ、三井住友銀行



## ナイン・ヴィジョンズ | 日本から世界へ 跳躍する 9人の建築家

会場：尾道市立美術館

協賛：常石グループ



## 神原・ツネイシ文化財団 建築文化再興プロジェクト 「成城の家」の写し— 丹下健三自邸の再現・予告展

神勝寺 禅と庭のミュージアム（無明院・明々軒）

協賛：中国新聞社、エフビコ



## Architecture Voice from LOG | 「建築の声」を聞く

会場：LOG

協賛：ヒロマツホールディングス、イズミ



## 後山山荘（旧・藹然荘）の100年とその次へ | 福山が生んだ建築家・藤井厚二

ふくやま美術館 ギャラリー

協賛：光和物産、ベッセルグループ、大和建設



## OPEN LLOVE HOUSE | 尾道「半建築」展

会場：LLOVE HOUSE ONOMICHI

協賛：安保商店、山丸汽船、PARIGOT、堀田組



子供向け・親子参加のワークショップへの協賛には、ワークショップ会場に複数のサインを設置し、企業名+ロゴマークを掲出した。

### 椅子づくりやノコギリ、かな削りを体験できる大工ワークショップ

会場：神勝寺 禅と庭のミュージアム

協賛：テラル



### 庭園でまなぶ、親子の循環ワークショップ「神勝寺の庭を舞台にしたコンポストづくり体験」

会場：神勝寺 禅と庭のミュージアム

協賛：ホーコス



『ひろしま国際建築祭 2025』の開幕を記念して4組の建築家を招聘し行われたトークイベントでは、協賛社名をイベントのタイトル名に付け開催した。

### ひろしまから世界へ——建築祭オープニング・プレミアトーク presented by marimo



鑑賞パスポートを購入せずとも無料で「建築」と触れ合うことができる「移動型キオスクー小さな建築プロジェクト」で誕生した3つのキオスクは、それぞれ協賛企業のサポートでつくられ、協賛社名やロゴマークを掲出した。

### 移動型キオスクー小さな建築プロジェクト 01： 「つぼや」堀部安嗣 × ウッドワン

会場：神勝寺 禅と庭のミュージアム（無明院・無明の庭）

協賛：ウッドワン



### 移動型キオスクー小さな建築プロジェクト 02： 「風景が通り抜けるキオスク (Catch)」 中山英之 × モルテン

会場：ONOMICHI U2 前「オリーブ広場」

協賛：モルテン



### 移動型キオスクー小さな建築プロジェクト 03： 「雲がおりる」 石上純也 × 常石造船・ツネイシカムテックス

会場：JR 福山駅南口

協賛：常石造船、ツネイシカムテックス



## 特別協賛・特別協力・協力

『ひろしま国際建築祭 2025』の開催にあたり、以下の個人・企業・団体の特別協賛、特別協力、協力をいただいた。

### 神原・ツネイシ文化財団 建築文化再興プロジェクト「成城の家」の写し——丹下健三自邸の再現・予告展

特別協力：内田道子、溝口至亮（GALLERY-SIGN）、TANGE 建築都市設計、おだわら名工舎

### 後山山荘（旧・藹然荘）の100年とその次へ | 福山が生んだ建築家・藤井厚二

特別協力：谷藤史彦、藤井英博、松隈章、後山山荘倶楽部、竹中工務店、聴竹居倶楽部

### ナイン・ヴィジョンズ | 日本から世界へ跳躍する9人の建築家

特別協力：千葉工業大学建築学科 今村創平研究室、京都大学大学院工学研究科建築学専攻 建築史学 ダニエル研究室、京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab、マルニ木工、アイティーエル

### うつすからだと、うつしの建築

協力：尾道市

特別協力：富士フィルムイメージングシステムズ、タティシ広美社

## 謝辞

展示「ナイン・ヴィジョンズ | 日本から世界へ跳躍する9人の建築家」では会場に以下の謝辞を掲出した。

TANGE 建築都市設計、槇総合計画事務所、磯崎新アトリエ、安藤忠雄建築研究所、KAZUYO SEJIMA+RYUE NISHIZAWA SANAA、鈴木久雄、伊東豊雄建築設計事務所、坂茂建築設計、山本理顕設計工場

ハイアット財団、日本デザインセンター、尾道市立美術館、東京都現代美術館、高知県立美術館、MISA SHIN GALLERY

フルステージ、デコラム、ブランコ、タカムラ産業、スーパー・ファクトリー、アートトランジット、アマナ、ピカソ画房

内田道子、仲俊治、玉田誠、末光弘和、熊井順一、キョ・グリフィス、新苗美緒、丹生有紀、イム・ヘジ、松崎志保、小宮山光、杉本直樹、グレン・スミーツ、クォン・イェソ、水田有子、天野圭悟、山中武、宮内智久、下田泰也、半村幹夫、桑原奈穂子、岡本彩加

京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab / 津田和俊、井上智博、孫詩禹、石田航平、ミン・キョンソク、浅井 睦、市村ともか、小川芹奈、、小野田美羽、木戸菜々佳、キョクサル エブラヌル、佐々木和、杉山鼓太郎、鈴木綾乃、高橋嘉一、筒井洸太郎、中山華琳、星野空、松本健太郎、三瀬みゆき、森湖音、芳澤海飛、吉富空

京都大学大学院工学研究科建築学専攻 建築史学 ダニエル研究室 / トーマス・ダニエル、北岡智也、越智遥、中村凌汰、白井雄也、弓削修二

千葉工業大学建築学科 今村創平研究室 / 今村創平、坂内俊太、猪股楓、川上拳汰、沓掛涼太、副島碧、平瀬美咲、飯塚真尋、石井美沙、奥富樹、佐藤祐莉彩、藤本千廣、徳富阜、浅見明優美、磯貝凧沙、乾美優、大池颯馬、荻野大河、金子雅史、櫻井朋哉、菅原詩那、鈴木真優、広瀬真妃奈、山岡智哉

展示「後山山荘（旧・藹然荘）の100年とその次へ | 福山が生んだ建築家・藤井厚二」では会場に以下の謝辞を掲出した。

竹中工務店、聴竹居倶楽部、後山山荘倶楽部、UID、タカムラ産業、ブランコ、藤井英博、松隈 章、谷藤史彦、宮沢 洋（BUNGA NET）、三谷道昭（大和建設）、柏原一郎（大和建設）、藤井孝浩（藤井製瓦）、末宗健男（松尾建設）、渡部英一郎（渡部組）、宮宗紀裕（つるや表具店）、西山雄一（西山木工）、香雪美術館、旧嵯峨御所大本山大覚寺、Relevant Object、八木邸倶楽部、ACG Villa Kyoto、早川喜子、木下壽子、小西章子、小西伸一、八木圭子、吉原もも子、八木研、八木亮、小川雅人

## XI. 主催団体

『ひろしま国際建築祭 2025』を主催した一般財団法人神原・ツネイシ文化財団については、次の通りである。

## 概要

名称：一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団

所在地：広島県福山市沼隈町常石 1083

設立日：2024 年 1 月 30 日

代表理事：神原勝成

## 目的

1. 建築文化を軸にした展覧会、講演会、情報発信等の事業
2. 建築文化を軸にした地域活性化および雇用促進のための事業
3. 地域の建築文化、伝統文化、伝統産業およびまちなみの保全に関する事業
4. 前各号に附帯する一切の業務

## 役員

代表理事 理事長 神原勝成

代表理事 副理事長 神原武子

理事  
石川康晴  
内田道子  
大原あかね  
白井良邦  
福武英明  
溝口至亮

監事 足立仁

評議員  
青井茂  
黒川周子  
小林宏明  
松田哲也  
松田敏之  
神原文雄  
浪山敬行

公式ホームページ <https://kambara-tsuneishi-foundation.jp/>





『ひろしま国際建築祭 2025』開催報告書

© 一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団

2026年5月発行